INAGI CITY

50th Anniversary

ほどよく田舎、ほどよく都会なまち

稲城市制施行50周年記念誌

稲城市民のメッセージ

市制施行50周年を記念して、市民の皆さんに「稲城の好きなところ」「今後のまちづくりに期待すること」という2つのテーマでメッセージをいただきました。市民が想い描く稲城の今を紹介します。

01

02

50th Anniversary INAGI CITY

稲城市民に聞きました

今後のまちづくりに期待すること

03

04

05

01 渡部さん 02 稲城ジュニア卓球クラブ 03 公益社団法人 九段 04 転倒骨折予防体操グループ パンジー 05 社会福祉法人 正夢の会
06 鳥山さん一家 07 FC平尾6年生メンバー 08 若葉台小学校学童クラブ 09 中央図書館シニアボランティア 10 萩尾さん夫妻
11 南山小学校学童クラブ 12 川島さん一家 13 川野さん一家 14 図書館制作ボランティア みかん

06

07

08

09

10

50th Anniversary INAGI CITY

稲城市民に聞きました

稲城の好きなところ

11

12

13

14

50th Anniversary INAGI CITY

©K.Okawara・Jet Inoue

目次

02 **稲城市民のメッセージ**
05 **市長挨拶**
06 **50年ダイジェスト**
11 **稲城の魅力・稲城市の自慢**
12 楽しみながら未来を創るひとをつくる
14 伝統 創作 芸能 国際 多彩な文化がとけあう
16 支え合い、助け合い、いつでもいつまでも自分らしく
18 恵まれた環境を守り 後世へ伝える
20 賑わいを生み 交流を作り 地域愛を育む
22 愛情をもって育てる 感謝していただく
24 まちを思い 人を思い 温かな地域をつくる
26 市民の心のつながりが まちの安全安心をつくる
28 スポーツを通じて健康づくり、人づくり、地域づくり!
30 豊かな自然と歴史 稲城の魅力を発信!
32 ふるさと稲城を語る
33 **稲城のまちづくり**
34 子育て・教育・文化
36 保健・医療・福祉
38 環境・経済・観光
40 都市基盤整備・消防・防犯
42 市民・行政
44 稲城のみらいを創る子どもたち
49 **わがまち稲城**
50 稲城マップ
52 稲城の文化財
54 稲城の太鼓判
56 姉妹都市と友好都市
58 数字で見る稲城のすがた
60 稲城インフォメーション
62 稲城市50年のあゆみ
66 **稲城市民のメッセージ**

表紙写真撮影　島倉繁夫さん
裏表紙写真撮影　佐藤芳孝さん
目次写真
稲城市制施行50周年記念「私の好きなまち"いなぎ"フォトコンテスト」
佳作「豪雨よくじつ」撮影 鈴木びんこさん

縄文の昔から、緑豊かな多摩の横山と
多摩川の清流にはぐくまれた私たちのまち稲城。
令和3年11月1日に、稲城市になって50周年を迎えます。
これまでの50年の歩みを振り返り、皆さんとともに祝い、
これからの50年を展望して未来につないでいきます。

稲城市制施行50周年を迎えて

稲城市長
高橋 勝浩

　稲城市は昭和46年に町から市となって、本年11月1日に50周年を迎えました。市民の皆様、関係団体、事業者等の皆様とともに、この半世紀の節目の年をお祝いできますことを誠に感慨深く思っております。

　50年前に、人口約3万7千人からはじまった稲城市は、以来、多摩川と多摩丘陵が織りなす豊かな自然環境を活かしながら都市基盤整備に取り組み、都心に近い立地でありながら自然が残り、災害や犯罪が少なく、地域活動が盛んな「緑につつまれ　友愛に満ちた市民のまち　稲城」として発展を遂げ、今では約9万3千人が暮らすまちへと成長いたしました。こうした稲城市の発展は、先人たちのご努力と、皆様のお力添えのおかげです。心から感謝申し上げます。

　この記念誌では、50年にわたり築き上げてきた稲城の歴史や魅力を写真や市内の様々な地域活動を担っている市民の方からのインタビューを通じてご紹介しています。この記念誌が皆様にとって稲城への誇りと愛着（シビックプライド）を深めていただく一助となれば幸いです。

　昨年来、世界的な新型コロナウイルス感染症のまん延により多くの地域活動に多大な影響が出ておりますが、皆様と力を合せてこの難局を乗り越え、稲城市が持つ魅力を更に高め、次の時代に紡いでまいりたいと思います。

　皆様にはこれからも、市政へのご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和３年11月

写真で振り返る

稲城市50年ダイジェスト

市制施行 町から市へ ——

豊かな水と緑に恵まれた、東京で25番目の市が誕生

1971年11月1日、稲城町は稲城市になりました。当時の人口は36、800人。京王相模原線の開通や平尾団地入居が始まる等、稲城町は急速な発展を続けていました。理想的なまちづくりを目指し、住民、議会、町が一体となって市制施行を進め、東京の中で25番目の市が誕生しました。

1971 昭和46年

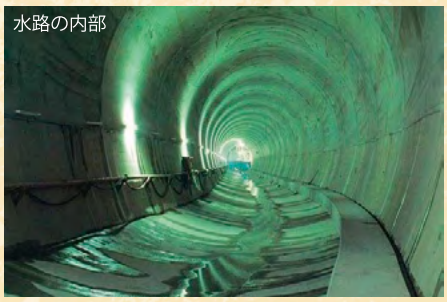
稲城中学校（現：稲城第一中学校）で開催された市制施行記念式典

1970年代

1982 昭和57年

市制 10 周年記念公園の吉方公園が開園

1984 昭和59年



三沢川分水路が完成、稲城地区の多摩ニュータウン開発が加速する　（出典：三沢川河川整備計画）

1988 昭和63年

入居が始まった多摩ニュータウン向陽台地区

1988 昭和63年

建設中の稲城市総合グラウンド

1989 平成元年

世田谷区から移転した学校法人 駒澤学園が開園

将来都市像の決定

「緑につつまれ 友愛に満ちた市民のまち 稲城」を目指す

市域の約6分の1を造成する多摩ニュータウン稲城地区の計画の決定、稲城駅と若葉台駅の開設、都心部からの人口流入など、稲城はまちづくりの大きな転換期を迎えました。目指すべきまちづくりの方向性を明らかにするため、市民と共に長期総合計画・基本構想が検討されました。将来都市像は「緑につつまれ 友愛に満ちた市民のまち 稲城」。この理念は現在のまちづくりにも受け継がれています。稲城発祥で「幻の梨」と呼ばれる「稲城」の栽培が始まったのもこの年代です。

1971 昭和46年

平尾団地

1972 昭和47年

少年キャンプ村が開村（当時は矢野口にあった）

1973 昭和48年

中央文化センター落成式の模様

完成間近の中央文化センター

1974 昭和49年

京王相模原線が京王よみうりランド駅から多摩センター駅まで開通

1981 昭和56年

住みよいまちに向けて

現在の発展の基盤づくりが始まる

新しい市役所庁舎（現庁舎）が完成

稲城市がいつまでも安心して暮らせる住みよいまちであることを願い、市民憲章が制定されました。社会福祉の充実に向けた活動拠点として福祉センターが開館、様々な福祉施策の充実が図られるとともに、保育園、文化センター施設の整備完了、地区防災センターの整備が始まりました。また、多摩ニュータウン稲城地区の造成工事が着手され、1988年に向陽台地区のまちびらきが行われました(同地区は、多摩丘陵の起伏に富んだ地形と街が織りなす景観が評価され、平成7年度に「都市景観大賞」を受賞)。1980年代、人口は50、000人を超えました。

1980年代

写真で振り返る 稲城市50年ダイジェスト

1999 平成11年

多摩ニュータウン事業が進行し、1995年に長峰地区、1999年に最後となる若葉台地区のまちびらきが行われました。矢野口、東長沼、大丸、百村地区など既成市街地では区画整理事業やJR南武線連続立体交差事業が着手され、21世紀に向けて稲城のまちの改革が始まりました。1990年代、人口は約65、000人となりました。

「いつまでも平和で友愛に満ちた心のふるさと稲城」をつくるため、平成3年に「稲城市平和都市宣言」を制定、また、子どもたちの作品交流がきっかけとなり、同年に北海道女満別町（現・大空町）との間に稲城市初の姉妹都市提携を結びました。

多摩ニュータウン若葉台地区のまちびらき

1990年代

21世紀の稲城像を描く

多摩ニュータウン最後のまちびらき
既成市街地は区画整理に着手

2003 平成15年

稲城市生涯学習推進計画に基づく市民大学 いなぎICカレッジが開講

2004 平成16年

コミュニティ施設・教育相談室・郷土資料室・体育施設などからなる複合施設 ふれんど平尾開設

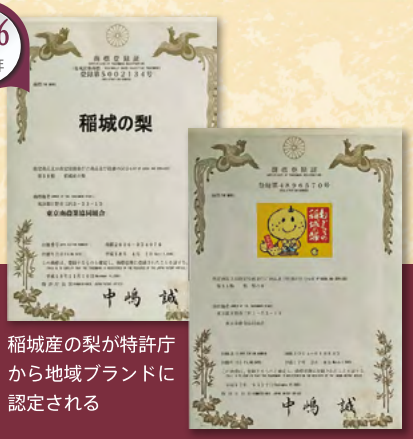
2002 平成14年

稲城市コミュニティバス　iバスが運行開始
（写真は現在のiバス）

2006 平成18年

多摩川原橋の４車線拡幅工事が完了。
開通を記念して、稲城市民 vs 調布市民の
綱引き大会が行われる
（写真提供　調布市・稲城市交流事業実行委員会）

2006 平成18年



稲城産の梨が特許庁から地域ブランドに認定される

1998
平成10年

区画整理事業中の矢野口榎戸地区（写真提供 島倉繁夫さん）

1997
平成9年

稲城中央公園のくじら橋が開通

1991
平成3年

北海道女満別町（現在の大空町）との姉妹都市提携記念式

1998
平成10年

新しい稲城市立病院の病棟が完成、業務を開始

2006
平成18年

東日本初の民間活力を導入した施設整備・運営を行う
稲城市立中央図書館が開館

市民活動の充実化

「友愛に満ちた市民のまち」のハード・ソフトが充実

2000年代の人口は、10年間で約15、000人増えて、約80、000人となりました。

地域振興プラザ・iプラザ・中央図書館が開館するなど、市民活動の拠点づくりが進みました。中央図書館は、公立図書館として東日本で初めて民間のノウハウを活用した運営を行い、同規模人口都市の貸出冊数で、開館以来全国1位が続きました。

また、市内最大のイベント「Iのまちいなぎ市民まつり」や全国的に評価が高い生涯学習講座「いなぎICカレッジ」の開始、高齢者が活躍できるまちに向けて、稲城市から生まれた「介護支援ボランティア制度」が実現するなど、地域で活動する市民のための施設や制度が充実しました。

2000年代

写真で振り返る 稲城市50年ダイジェスト

2010年代

シビックプライドの醸成に向けて

稲城の魅力を高め発信する活動・施策が活発に

イメージキャラクター「稲城なしのすけ」が誕生し、ゆるキャラ®グランプリ2013で、都内第1位を獲得しました。2016年に「いなぎ発信基地ペアテラス」を開業、2018年には稲城市観光協会を設立し、市の魅力を市内外に発信しています。また、JR南武線の高架化が完了し「踏切がないまち」として利便性が高まり、各地の土地区画整理事業も進められ、人口は9万人を超えました。若い世代の転入も進んで、多摩地域で市民の平均年齢が最も低いまちとなっています。

一方で、自然環境の保全に向け、全国の市区町村では38番目となる「生物多様性地域戦略」を策定するなど、将来都市像の「緑につつまれ 友愛に満ちた市民のまち 稲城」に向けて市民と行政が一体となって進んでいます。

2016 平成28年

© 創通・サンライズ

市の観光案内所「いなぎ発信基地ペアテラス」オープン

©K.Okawara・Jet Inoue

2013 平成25年

JR南武線の稲田堤ー府中本町間の高架化が完了し、稲城市は「踏切のないまち」となる

2016 平成28年

市内初のトンネル「上平尾トンネル」が開通。若葉台ー平尾間の往来が便利に

2017 平成29年

南多摩駅前まちびらき式典開催

© タツノコプロ・読売テレビ 2008

南多摩駅前に大河原 邦男氏デザインのアニメキャラクター「ヤッターワン」モニュメントを設置

2019 平成31年

稲城長沼駅前のペアテラス南側に新たな公園「いなぎペアパーク」が開園

2020年代

稲城市100年へ向けて みんなでつくる 笑顔と未来

東京2020オリンピック競技大会の自転車競技ロードレースが市内をコースの一部として開催

2021 令和3年

米国フォスターシティ市との姉妹都市提携を締結（コロナ禍のためオンラインで実施）

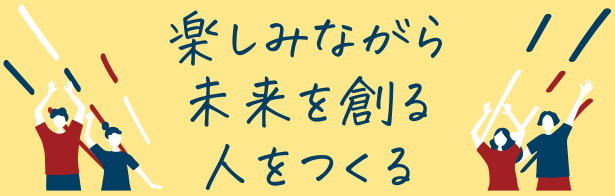
稲城の魅力・稲城市の自慢

稲城市の自慢は、より良い地域づくりのため活動する市民がたくさんいること。
様々な分野の地域活動で活躍する市民が稲城の魅力を語ります。

50th Anniversary
INAGI CITY

稲城市制施行50周年記念
「私の好きなまち"いなぎ"フォトコンテスト」
優秀賞/切手賞
「初夏の風物詩」
撮影 佐藤芳孝さん

稲城の魅力・稲城市の自慢



明るい明日を信じて、常に自己の世界や可能性を広げ続ける人たちが、まちの未来も創っていきます。まちの未来を創る人づくりに向け活躍している方々にお話を伺いました。

① 私の活動内容　② 活動への思い　③ 私にとっての稲城の魅力

ビジネスを通して地域に関わる人を支援する

いなぎコミュニティビジネスクラブ（ICBC）
浜田有里恵さん

① 私が代表を務める「いなぎコミュニティビジネスクラブ（ICBC）」は、いなぎICカレッジの講座「成功する地域ビジネス学」の受講生を中心に結成されました。「自分が暮らす地域で何か活動したい」「自分の力を活かして地域に関わりたい」。そんな想いを持った人たちが出会い、つながり、学びあいながらその成果を発信できる場づくりを通して、地域の人とビジネスを支援しています。

地域ビジネスを創発する「Soコンテスト」

② 私自身は個人のスキルや経験を活かすキャリア・カウンセリングの訓練を積み、地域で活動する人の可能性や能力を引き出して、発信するお手伝いができればと考えています。想いを持って地域で活動する人が活性化することで、地域もさらに活性化すると思います。

ICBCは様々な経験やスキルを持つ人たちの集まりです。その多様性を活かし、今後も地域ビジネスの可能性を広げていきたいと思っています。

③ 稲城市に暮らし始めた頃「山と川に囲まれ、緑に包まれた空気のきれいなまちだなあ」という印象が強く残りました。そんな環境の中で暮らすうち、自分自身が自然体でいられることに気付くとともに暮らす人たちが、顔が見える関係性でつながり"自分らしくいられるまち"だと感じました。市内の各地区はそれぞれ個性や特徴があり、人や地域が交流して多様なものが創発されていく、これからも楽しみなまちだと感じています。

楽しく学び続ける市民のコミュニティをつくる

いなぎICカレッジ
片田元己さん（写真右）　**阿部啓子さん**

① いなぎICカレッジの「IC」は、「インタラクティブ・コミュニティ（＝相互交流できる地域社会）」という意味で、「講師から受講生へ」という一方向の講座ではなく、講師・受講生・理事・事務局が共同で講座運営している市民大学です。

2003年に、市民講師による市民のための一般教養講座からスタートし、2007年からは第一線で活躍する大学教授や名誉教授を講師に迎えて、男性も含めあらゆる世代が「やさしく楽しく」専門的な知識を学べる「プロフェッサー講座」も開講しました。市民ボランティアの理事が中心になって運営し、市は対外的な窓口や講義の場の確保などを担当して、年間約1500人の受講生が意欲的に学んでいます。

② ICカレッジの魅力は、日ごろ興味や関心を持っているテーマや、最先端の専門的な知見を身近に学べるところにあると思います。講師と受講生との距離が近く、疑問点なども尋ねやすいので理解が深められます。受講生の皆さんには、ライフワークを見つけたり、生涯学び続けられるきっかけを得ていただき、さらに学んだことを地元で発信したり地域貢献に役立てていただけたら嬉しいです。

③ 稲城は都心に近いのに、山があり川もあって、緑も水も豊かで快適な環境なので、子育て世代や高齢者には安心できるまちだと思います。地域のことを知り、地域の人を知るほど、住みやすく感じられますね。

プロフェッサー講座

コーラスの一般教養講座発表会

子どもたちに日本の伝統音楽の魅力を伝える

稲城市三曲協会
粟井洋子さん

1 学習指導要領で日本の伝統文化や伝統音楽を教えることが定められ、和楽器の授業も行うようになったことから、市立小・中学校の小学6年生と中学1・2年生に琴を教えてきました。

授業では、まず琴の歴史や構造などを教え、次に礼儀作法、あいさつの大切さを教えます。そして琴の生演奏を聴かせたあと、演奏体験として小学校は「さくらさくら」、中学校は「荒城の月」「里の秋」「数え唄」「うれしいひなまつり」等を教え、最後に尺八が加わって全員で合奏します。

琴を弾けるようになる喜びを体験

2 当初、学校には授業をできるだけの数の琴が無くて、私から教育委員会へ寄付したこともありました。やがて各中学校で琴を揃えて、校区内の小学校と共有して使えるようになり、先生方の熱意には心を動かされました。

子どもたちも琴の授業のことを覚えていて、まちで会った時や20歳になった成人式の時でも声をかけてくれるので、とても嬉しく思います。また、授業の感想文では「他の曲も弾いてみたい」「もっと覚えたいので、また来てください」などと書いてくれて、私の宝物になっています。

やはり、先生方や教える側の情熱は子どもたちの心に伝わるのだなと感じます。

3 私が昭和42年に越してきた当時、近所には電話線も引かれていませんでしたが、それから稲城のまちが成長・発展していく様子をつぶさに見てきて、様々な委員会等や団体の役員として市に関わらせてもらってきましたので、稲城市に愛着があり、「稲城市のためなら何でもやってあげよう」という思いでいます。

礼儀作法はきちんとした挨拶から

地域のおやじ仲間みんなで子育て!

稲城父親の会　（いなちち）
橋　謙太さん　荒木伸文さん
山田　誠さん　小越和宏さん（写真左から）

1 「いなちち」は、市内の幼稚園、保育園、小・中学校に組織されている約20の父親の会が加盟している連合体です。仕事などで平日昼間の活動に参加できない父親が、休日に子どもたちと一緒にイベントを行って楽しんだり、子育てや育児休暇、子どもの福祉などに関するセミナーやフォーラムを開いて学び合ったりしています。

父親にとっては家庭、職場以外の「サードプレイス」で多様な人と出会い、地域の仲間づくりができ、子どもにとっては他家の親と関わりを持つことで社会性が高められます。以前なら父親は、学校行事の当日に参加するだけでしたが、今では準備段階からお手伝いするようになりました。

2 いなちちの活動をすることで、家庭にいる時間が減ってパートナーに負担をかけたり子どもとの時間が無くなっては本末転倒ですから、「何のためにやっているのか」を常に意識しています。また、自分たちが楽しめなければ子どもたちも楽しくないので、義務感ではなく楽しんで活動しています。

子どもたちには、良い思い出をたくさん作ってほしい、子どもたちがやがて親になったら自分が経験したことと同じようなことを子どもたちにしてほしい、と思っています。

3 稲城は、都心から電車で30分間の距離にありながら、里山があり川もある豊かな自然に恵まれた環境のなかで、豊かな人間関係がつくれる住みやすいまちです!

いなちち最大のイベント、Iのまちいなぎ市民まつりで
毎年行っている「攻略いなぎ城」

稲城の魅力・稲城市の自慢

伝統 創作 芸能 国際！！ 多彩な文化が とけあう

水と緑に包まれ、永い歴史に育まれてきた稲城の文化。
多彩な文化活動の中で市民の温かな交流も育まれています。
そんな稲城の文化を伝え広めるため
活躍している方々にお話を伺いました。

① 私の活動内容　② 活動への思い　③ 私にとっての稲城の魅力

稲城市民と海外との文化交流を促進

稲城国際交流の会
藤田佑二さん

① 稲城国際交流の会は1992年に発足し、来年で30周年を迎えます。私たちの活動は、国際交流事業、市民交流事業、市の委託事業に大別されます。

国際交流事業は、毎回一つの国を取り上げ、その国の人から話を聴いたり民族料理を一緒に作って食べるなどして理解と親睦を深める国際理解講座や、講師がその国の時事問題を解説する国際交流さろん、ふれあいパーティなどを開催しています。

市民交流事業では、中国の稲城県と相互訪問したり物産展を開催するなど、海外都市との交流を行っています。

市の委託事業としては、市内の中高生や留学生によるスピーチ大会や、稲城名産の梨を食べながら伝統文化を体験してもらう会などを開催しています。

市内の学生や留学生によるスピーチ大会
「コミュニケートしよう、わたしたち地球家族」

② いま稲城市で暮らす人は9万2千人、そのうち外国人は1500人いますので、彼らの生活や就学をサポートする制度や仕組みを手厚くしてほしいと願っています。

日本における海外の情報は特定の国や地域に偏っており、様々な国の人の考え方や文化を知らないと、損をするのは日本人ではないかと危惧しています。観光でインバウンドを増やせば良いということだけではなく、長期的な展望をもって、稲城で暮らす外国籍の人に日本を好きになってもらえるような対応をするべきだと思います。

③ 身の丈に合った生活ができるまちです。様々な活動や団体に関わって会合などに出席すると、必ず知り合いの誰かがいて、活動の後に食事をともにしたりすると仲良くなれる。それが稲城くらいの規模のまちだと、度々一緒になり関係が促進される。市民活動をしやすい規模のまちです。

郷土の伝統芸能を脈々と受け継ぐ

江戸の里神楽　山本頼信社中
山本秀信さん

① 神前に奉納する舞を御神楽といい、民俗芸能の一種として神楽殿や民間でも行われるのが里神楽です。私ども山本家は代々、穴澤天神社の神職を務めるとともに神楽を継承しています。当家の神楽は1373（応安6）年、山本権津師弘信が神前で舞った太々御神楽から始まりました。江戸中期の1718（享保3）年、山本伊勢守藤原時信の頃より古事記や日本書紀、神話から題材を得て、演劇性を加えた里神楽として、現在の十九世 山本頼信へと伝えられています。

毎年の穴澤天神社例大祭で奉納されるほか、稲城市郷土芸能大会や近隣の神社祭礼で演じており、1994年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

十九世 家元　山本頼信氏

② 里神楽は難しそうな印象がありますが、ひょっとこ姿の道化役が登場して場を和ませるなど娯楽性もあります。昔の人は里神楽を観て、役者が演じる役に感情移入したり憧れや恐れを抱いたりして、日々のつらい労働から束の間離れて、非日常の世界を楽しみました。

里神楽をはじめ、稲城には豊かな伝統文化が受け継がれています。市民の皆さんにはもっと関心を持っていただきたいと思いますし、私たちもさらに精進しなければと思います。人と人のつながりが薄くなっている今だからこそ、郷土の伝統文化を縁にして、地域のつながりを強めていただきたいと思います。

江戸の里神楽

③ 穴澤天神社には近くの幼稚園・保育園・小学校からお子さんが訪ねてきたり休日には若い家族連れも多くお詣りにいらっしゃいます。山の中腹にある当社は緑に包まれ、空気がきれいで湧き水もあり、豊かな自然に触れながら伝統文化に親しんでいただければ幸いです。

稲城の芸術文化を広める 高める 育む

稲城市芸術文化団体連合会
安東道正さん

1 戦後の社会が落ち着き、文化活動への市民の気運が高まって、1969年に初の稲城市民文化祭が開催されました。1973年に稲城市芸術文化団体連合会（以下、芸文連）が発足しました。それ以降、市民文化祭は芸文連が主催するようになりました。

現在、私たちの活動の中心は、稲城市民文化祭・芸術祭とサロンコンサート、市民交流イベント、市民ギャラリー、青少年育成事業、姉妹都市芸術文化交流事業などで、各事業を担当する個別の委員会が事業内容の検討などを行い、理事会で承認するスタイルにしています。

稲城市民文化祭

稲城市芸術祭

2 現在、9団体86名が加盟し、「稲城市の芸術文化を広める、高める、育む」をコンセプトに活動しています。会員の中に根付いている相互信頼と機会均等の精神が、芸文連の伝統です。私たちはボランティアなので、楽しく活動できなければと思いますし、多くの市民が参加したくなるような魅力的なプログラムを創らなければと思います。

各事業に多くの人が参加し、創意工夫しながら嬉々として活動する姿を見るとき、会長として大きな喜びを感じます。ただ、コロナ禍を経験して団体としての活動が難しいこともあり、集団から個人の時代に移行しつつあることを強く感じます。

3 稲城は、ニュータウン地区に多くの芸術家がいることが知られていますが、昔からの住宅地にも獅子舞や神楽、囃子をはじめ華道、茶道、書道など伝統芸能に携わる多くの芸術家がいて、芸術作品やパフォーマンスを身近に観覧することができます。稲城は、そのような文化が連綿と受け継がれていることが素晴らしいと思います。

悠久の時を超え地域の安寧を願う

青渭神社
福島信雄さん

1 稲城市東長沼地区の鎮守社・青渭神社は、青渭神（あおいしん）、猿田彦命（さるたひこのみこと）、天鈿女命（あめのうずめ）を祀っています。主祭神の青渭神は、青沼大明神ともいわれる水の神様で、1000年ほど前にこの地に鎮座されました。当時は大丸から矢野口まで一帯に多摩川が流れ、東長沼地域は沼地だったようで、沼のほとりに人家が点在する風景だったのではないでしょうか。

境内に2対ある狛犬の古いほうは江戸時代の文化・文政年間（1804～1830年）に造られたので、その頃に村人の暮らしが安定し、村の財政基盤も整ったと思われます。大正時代の終わり頃に農地造成が行われ、沼地は水田や畑、果樹園になりました。昭和30年代に水田が減少して宅地化が進み、現在のようなまちになりました。

2 昔から神社は、地域の人々が暮らしの安全安心を願って建立しました。私は当神社の宮司として、その思いを尊び、地域と各家の安寧・発展を願って、折々の祭礼など神事を行っています。地域の年中行事や、七五三や地鎮祭など各家で行う神事で、神社を大切に思っていただけることを喜ばしく思います。

神社は時とともに姿形を変えても、鎮守の森を吹き抜ける風は1000年前から変わりません。スピードや効率が重視される今の時世ですが、時には鎮守の風に吹かれて悠久の時の流れを感じていただければ幸いです。

3 都心に近く、平坦地やなだらかな丘陵に住宅地が設けられ、気候は穏やかで災害が少ない暮らしやすいまちです。今後は、多くの人が集まる国や都の施設を誘致して、生活の文化性や利便性が高まるような施策を行政に期待したいです。

節分祭の豆まき

稲城の魅力・稲城市の自慢

支え合い、助け合い、いつでもいつまでも自分らしく

同じまちに暮らす者同士、支え合い、助け合って、
いつでもいつまでも自分らしく生きていける……
そんな温かな地域づくりのため
活躍している方々にお話を伺いました。

① 私の活動内容　② 活動への思い　③ 私にとっての稲城の魅力

悩み事・困り事の頼れる相談役

稲城市民生児童委員協議会
原田正行さん

① 私たち民生委員は「民生委員法」に基づき厚生労働大臣の委嘱を受けた非常勤の地方公務員で、「児童福祉法」に基づく児童委員も兼任しています。民生・児童委員はそれぞれ担当の地域をもち、地域の福祉向上のために活動しています。

活動内容は、地域に暮らす方の悩み事や困り事の相談役として、話を聴いて適切な行政や支援機関につなげたり、子どもや高齢者の見守り、社会福祉に関する情報提供、小・中学校での朝のあいさつ運動、関係団体が行う防犯パトロールや美化活動への参加等々、多岐にわたります。

朝のあいさつ運動

② 私たちがやり甲斐を感じるのは、地域の方から「頼られている」と実感できたときです。以前は「困ったときは民生委員が相談にのってくれる」と言われていましたが、最近では民生・児童委員の存在を知らない方も増えています。市民の皆さんには、不安なことや心配事があったら一人で悩まず私たちに相談するなど、民生・児童委員をうまく利用してほしいですね。

③ 稲城は「住みやすいまち」の一言に尽きると思います。市内のどこに住んでいても数十分で鉄道駅を利用でき、都心まで30分で行けます。まちには緑や公園が多く空気も良いし、災害や犯罪が少なく、安心して暮らすことができます。

このような稲城の魅力は、代々の先輩市民が長い努力の末に築いてきたものです。若い市民の方々には是非そのことをご理解いただき、末永く継承していっていただきたいと思います。

稲城市民生児童委員協議会

健やかで和やかな高齢者のコミュニティをつくる

稲城市みどりクラブ連合会
中川利昭さん

① 「稲城市みどりクラブ連合会」は市内に12ある高齢者クラブの連合体で、60歳以上の市民750人ほどが会員となっています。連合会として、介護予防を目的としたレクダンス、グラウンドゴルフ大会、輪投げ大会といったスポーツや、高齢化社会や防犯、健康に関する講習会などを行うほか、各クラブ単位でもウォーキングや軽スポーツ、俳句や書道、絵画、麻雀や囲碁将棋、カラオケ、地域美化や地域の見守りボランティア等々、多彩な活動を展開しています。

健康体操の講習会

グラウンドゴルフ大会

② この頃はコロナ禍で従来の活動を行うのが難しいのですが、高齢者は、出来るだけ外に出て太陽の光を浴びて、身体を動かして友だちと一緒に食べておしゃべりする、ということが大切だと思っています。

連合会の会長、そして向寿会というクラブの会長として、まずは自分が楽しんで活動しないと会員の皆さんも楽しめないと考えています。10年前と同じことをやっていては今の時代に合わない面もあるので、常に方々へアンテナを張って、自分も会員も楽しめる新しいことを探しています。

③ 稲城市の高齢者福祉は細かい点まで配慮されていて心強い思いがします。高齢者には、安全で安心して心豊かに暮らせる環境が必要です。その点、自然が豊かで良い意味で程よく田舎な稲城は「里山文化都市」だと思っています。都心に近くて公園や散歩道が多く、防災・防犯面も安心できるので、高齢者にも子育て世代、現役世代にも住みやすいまちです！

障がいのある人が社会を学び地域で活躍できる場を増やしたい

障害者の社会参加支援に取り組む
川本安岐夫さん

1 私は、主に障がい児者を支援する3つのグループで活動しています。

まず「稲城知的障がい者支援ネットワーク」は、知的障がいの子を持つお父さんが中心になって、知的・発達障がいのある人が地域で生活していくのに必要な環境づくりを進めています。次に「稲城市知的障害者団体連絡協議会安心安全連絡会」では、障がい当事者（本人・家族）と行政・福祉事業者・支援者が、安全安心、防犯、防災、消費者問題など障がい者を取り巻く課題に取り組んでいます。ヘルプカードの普及・啓発活動を行ったり、障がいのある人と支援者、関係団体が交流するイベント「つながりパーク」も、ここが主催しています。

そして「チョコっと四郎」は、第四文化センターを会場に、音楽や手品など趣味のサークルの協力を得て、一般市民とともに知的障がい者の居場所づくりをしています。

チョコっと四郎

つながりパーク

2 福祉の分野の地域活動は、市民と行政が協力し合うことで、より良い成果が期待できるので、行政と一緒になって様々な仕組みやイベントを創っていくよう心掛けています。また、障がいのある人が社会や地域について学ぶ場や、特性や能力を活かして活躍できる場を増やすために、多くの人や団体に声をかけて参画をお願いしています。

地域活動は、目的を達成するまでのプロセスを楽しむことも大事だと思っていますので、成功させることより長く続けることを第一に考えています。

3 稲城市は面積が小さく人口も少ないですが、人と人との心の距離が近く、自分に合った生き方、生活ができるまちだと思います。

住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう支え合う

支え合う会 みのり
藤森良子さん（後列左） 石田惇子さん（後列右）
吉川ひとみさん（前列左） 中村陽子さん（前列右）

1 私たちの「支え合う会　みのり」は、1983年に行われた市の公民館講座の参加者が中心となって発足した「稲城の老後を支える会」を母体に、初代会長・小林節子さんの「講座で学ぶだけでなく社会で実践することが大切」との考えのもと、翌年から高齢者の会食会を始めました。

今回のコロナ禍前の時点で、会食会を9か所の公共施設等で月に11回、手作りのお弁当を会員宅へ配達する配食サービスを一日110食程度行うほか、訪問サービス、高齢者の居場所づくり、介護予防・日常生活支援総合事業など、高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けられるよう「支え合う」活動をしています。

2 高齢者は日頃一人で食事している方も多く、お一人暮らしの方はみのりの配達でその日初めて会話したという方もいます。一方で、みのりで色々な人と知り合い地域活動に参加するようになった方や、友だちに声掛けして参加者を増やしてくれる方もいます。みのりが、高齢者の社会参加の場にもなっていると感じます。

会食会は様々な人とつながることができ、地域の情報を知ったり老後のことが勉強できるので、会食会に参加したいという方が多く、食事の持つ力を痛感します。やはり、みんなで顔を会わせて食べたり話したりすることは大切ですね。

3 稲城は適度に都会で適度に田舎なところが魅力だと思います。まちが適度な規模で、全体の動きが見えるし、その動きに加わることもできます。ただ、最近は自然の緑が減ってきたので、稲城の良いところを守り残していきたいです。

ミニデイサービスたまりば

配食サービスのお弁当を手作り中

稲城の魅力・稲城市の自慢

恵まれた環境を守り後世へ伝える

豊かな水と緑に恵まれた稲城市。
この自然環境は私たちのかけがえのない宝物です。
そんな稲城の環境を守り、後世へ伝えるため
活躍している方々にお話を伺いました。

① 私の活動内容　② 活動への思い　③ 私にとっての稲城の魅力

地域住民が手作りした公園をみんなで手入れ

押立かんきょう委員会
宮向康世さん

① 私たちが維持管理を行っている「押立堀公園」は、市の援助を受けて計画から施工まで300人を超える地域住民が参加して手作りした公園です。1997年の完成後に押立自治会が中心となって本委員会を発足させ、押立堀公園の維持管理と多摩川のアカシア林散策道の手入れを行い、まもなく四半世紀になります。

月一回の活動日には30人を超える住民が参加して、草刈り、清掃、畑の手入れ、池の管理、多摩川のごみ拾い、植栽剪定等を行っています。

多世代が一緒に公園の手入れ

② 活動は、「安全第一でケガに注意する」「無理をせず、やれることをやる」「使った道具は元に戻す」をモットーに、自治会関係者をはじめその他協力団体並びに、第四小学校や第四中学校の児童・生徒と先生、PTAなどが、"活動できる時に参加する"というスタンスで行っています。毎回多くの参加者があり、「草刈りで日頃のストレスを解消できる」と活動日を楽しみにしている会社勤めの方がいたり、植木屋さんもいるのでプロの剪定が学べたりもします。

みんなが集うことで参加者同士の話が弾み、時には相談事もできるなど新しいコミュニティが生まれ、有意義な時間を過ごしています。

③ 押立地区は昔ながらのまとまった地域で、四小、四中、文化センター等の施設が近くにあり、新しい方を歓迎する雰囲気が随所に見られます。稲城全体では山あり川あり田園風景も多く残っていて、昔ながらの地域と新興住宅地など新しい方々が入られる地域とが融合することにより、さらに活性化したまちづくりができるのではないかと期待しています。

映像作品を通じて生物多様性の大切さを伝える

メディアプラン
島倉繁夫さん

① 三沢川とその流域に生息する生き物たちの生態を記録したドキュメンタリー映画「三沢川いきものがたり」を自主製作し、稲城市内外での上映会や講演会、三沢川のガイドツアー、地域の学校での出張授業などを通じて、自然界の営みの素晴らしさや生物多様性の大切さを伝えています。

② 映画制作のきっかけは、三沢川のジョッギングでカラスとヘビの戦いに遭遇したことでした。生態系の比較的上位に位置するヘビが生息するということは、この地域に豊かな生物相が存在しているに違いない、それを映像で記録すれば、稲城の自然の豊かさと世界的に注目の度合いを高めている生物多様性に対する気づきを促せる、と考えました。

それからは毎日カメラを持って三沢川沿いを歩き続け、撮影に5年半、編集に2年かけたのちクラウドファンディングで集まった資金をもとに作品としての完成度を高め、78歳のときに市内で初めての「三沢川いきものがたり」上映会を開催させていただきました。

作品作りの根底にあったのは、まず"稲城のすばらしさの再認識"。次は近隣市に向けての"稲城アピール"です。春夏秋冬魅力満載の三沢川をコア（核）として、市内のあちこちで開催されるイベントなどに近隣からの訪問者が増えることを願っています。

人は身近なものにはなかなか価値を感じられませんが、この作品が、自分たちが住む地域の再発見に留まらず、地域振興、果てはその先の地球規模の問題につながる生物多様性の重要さに気づくキッカケになれば嬉しいです。

「三沢川いきものがたり」上映会での髙橋市長とのトークショー

③ 稲城にはまちのために積極的に行動している人たちが多く、人のつながりがとても豊かです。facebookには毎日、市民発による稲城のニュースがあふれ、まるで稲城市民の伝言板ではないかと思うくらいです。このようなSNSを通して生まれた関係が、イベントや活動などのリアルな場で発展のスパイラルを巻き起こしていることに、一市民として大きな喜びと誇りを感じています。

南山の生き物と共存し里山の素晴らしさを伝える

里山プロジェクトみなみ
多村淑子さん

1 南山西部地区に残る里山で下草刈りや間伐など山林の手入れを月２回定期的に行っています。主な活動フィールドは、地主の許可を得て2008年から手入れをしている「桜の広場」と、10年以上放置された山林を2011年に購入し、ヤブを切り拓いて樹木を移植するなど里山の雑木林再生から始めた「一の森」の2か所です。活動フィールド周辺のヤブ化した山林も地主の許可を得て里山再生を行っていますが、その中の休耕地を開墾して新たな畑として利用させていただいています。

手入れした雑木林には散策路を整備し、伐採した木をベンチにして地域の方の散策の際に利用してもらったり、森での音楽会や昆虫観察会、里山手入れ体験、畑の収穫体験など一般の方向けのイベントも開催して、身近にある里山の自然の素晴しさを伝えたり、里山と普段の生活をつなげるお手伝いをしています。

雑木林の手入れ

2 南山の雑木林に棲む多様な動植物が生き続けられる環境を保ちながら、地域の方々に身近な里山の自然を味わい楽しんでもらうには、どのような手入れをしていくべきか、人と動植物が共存できるための手入れの仕方を日々模索しています。

3 里山保全活動をしていて感じる稲城の魅力は、自然が豊かなことに尽きます。緑にあふれ土を踏みしめることができ、タヌキや野ウサギ、野鳥や希少植物を普通に見られるのは奇跡に近い幸せなことだと思います。東京とは思えない里山で、豊かな自然と身近に触れられる稲城に住んでいる幸せを多くの方に実感していただきたいと思います。

昔ながらの自然と風景をまちの財産に

坂浜 水車の会
中山哲夫さん　尾中義男さん(前列左から)
篠 茂さん　榎本一朗さん(後列左から)
榎本勝美さん(後列右)

1 私たち坂浜 水車の会は、坂浜地区住民のボランティアの集まりで、昔ながらの谷戸の地形を活かした「上谷戸親水公園」と「上谷戸緑地体験学習館」の施設管理や植栽の手入れ、交流イベントなどを行っています。毎年3月にはひな人形の展示と桜餅づくり体験会、4月はタケノコ掘り体験、5月は五月人形展示と鯉のぼり掲揚、柏餅づくり体験、秋には里芋やさつま芋の芋掘り体験と収穫祭、写真展など、家族揃って楽しめるイベントを開催しています。特に春に展示する人形や鯉のぼりは市内外の家庭から寄付されたもので、地域の新たな風物詩となり毎年多くの観覧者が訪れます。

また、地域の小・中学校や青少年育成地区委員会が地域の自然環境を体験したり学習する場としても活用されており、子どもたちに案内や説明をしています。

上谷戸公園で見られるチョウゲンボウ。
大切に見守っています。

毎年恒例のこいのぼり掲揚

2 私たちは参加できる人が毎週集まって、施設管理とともに植栽の剪定や畑仕事などに汗を流しています。訪れた人に「地域の自然や暮らしに触れられる、こんな施設があったんですね！ イベントを楽しみにしてます」などと言っていただけるので、やり甲斐を感じます。ここで水辺の生物や畑の土に親しんだり、せせらぎの散歩を楽しむとともに、色々な人の交流の場としても活用されるよう、さらに地域内外に広めていきたいです。

3 上谷戸親水公園は2007年に国土交通大臣から「手づくり郷土賞」をいただきました。稲城は豊かな自然が財産ですから、野生の動植物の生息環境を守り残すとともに、郷土の昔ながらの風景や行事も残し伝えて、まちの財産として活かしていってほしいです。

稲城の魅力・稲城市の自慢

賑わいを生み 交流を作り 地域愛を育む

人々が集い交流し、このまちを知り、
このまちで暮らす人を好きになる。
そんな時と場をつくるために
活躍している方々にお話を伺いました。

① 私の活動内容　② 活動への思い　③ 私にとっての稲城の魅力

地域の手づくりイベントを稲城の恒例行事に

稲城手づくり市民まつり実行委員会
村尾義廣さん

① まちびらきをした多摩ニュータウン地区住民の交流を促進するため、東京都が「ガーデンシティ多摩」というイベントを始めたものの、数年で撤退してしまいました。住民の間から「イベントを止めてしまうのは惜しい、自分たちの手で続けよう」という声が上がり、地域の市民団体と有志の個人が協力して第１回の稲城手づくり市民まつりを開催しました。

資金ゼロからのスタートでしたが、有志が手弁当で集まり、企画から広報、設備調達、運搬、設営等々すべて自分たちの手で行い、出店者や出演者から協力金や出演料をいただいて運営資金に充当し、実行委員も出店して売上を運営に充てました。やがて、市内のNPO法人や福祉法人の協力と援助を得られるようになり、会場も当初の城山公園広場から芝生広場、絵本の森、竜の池ステージへと広がり、ニュータウン地区外からも出演者が集まるなど、稲城市全体の恒例行事に成長しました。

稲城手づくり市民まつり 城山公園広場会場

② 多くの有志・団体の温かい支援と協力のおかげで開催できる手づくり市民まつりは、「自分たちも何かやりたい」という思いを持った人たちが参加してくれるようになり、演出や装飾など創意工夫してノビノビと活動する姿を見ると嬉しく感じます。やはり色々と企画して行動することで、みんなが地域へ関心を持つようになるのだと思います。

③ ニュータウン地区は、「元々あった地域の自然や文化を活かす」というコンセプトでまちづくりが行われ、公園や植栽が多くパブリックアートが置かれて、道を歩いても楽しく気持ちの良いまちです。様々な立場の人がフラットに話し合える関係ができていて、次世代への継承に希望が持てます。

会員の経営を支援しながら、まちの賑わいを創る

ペアリーロード稲城商店街
田中　学さん

① JR稲城長沼駅周辺の商店でつくる「ペアリーロード稲城商店街」の会長として、賑わい創出のためのイベントや他の地域団体とのコラボレーション等を企画・実施するほか、今般のコロナ禍では会員店舗の経営支援として、市からの経営支援金拠出の交渉に当たったり、中小企業庁のGo To 商店街事業に応募して、Web商店街の構築、PRパンフレットの作成による活性化事業に取り組みました。また、老朽化した商店街施設の撤去なども補助金を活用して会員店舗の負担なしに行っています。

Go To 商店街事業で作ったWeb商店街

② 商店街は昔のようにお金をつぎ込んでイベントを行う時代ではなく、個々のお店がお客さんとのコミュニティを守りながら努力して強くなっていかないと、商店街を盛り上げるのは難しいと考えています。

自分自身、お金の使い方を覚えたのは地元のお店でしたし、店主のおじさんに叱られたりオマケしてもらった思い出があります。そのような思い出を今の子どもにも作ってほしいし、家族で商店街を楽しんで、一人ひとりのお客さんに満足していただけるよう、商店街の在り方もアップデートして、地道に取り組んでいきたいと思います。

商店街が主催する賑わい創出イベント「ビアテラス」

③ 「誰も置き去りにされないまち」であることが、稲城市の一番の魅力だと思います。以前、JR職員の方に「稲城のイベントは、すべての世代の人が参加しているね」と言われたことが心に残っており、商店街のイベントもすべての世代の方が楽しめることを第一に考えています。今後もすべての世代の方が参加できて楽しめるよう、南山地区・ニュータウン地区と既存住宅地をつなげられるような仕掛けを考えていきたいと思います。

料理で稲城を盛り上げたい！

走る！ 洋食屋さん♪いなぎsatoyamaキッチン
浅野純一さん、和代さん

① 店舗営業とキッチンカーの二本立てで、稲城産の野菜を使った洋食や和食をお出ししています。キッチンカーは市内外のランチスポットやイベントに出店し、特に市外のイベントでは料理とともに稲城市の魅力を大いにアピールしています。

キッチンカーでのランチ営業

② 稲城で育ったので、自分の故郷を一番にしたいと思って活動しており、そういう自分の姿を見て、これまでお世話になった方たちが喜んでくれたら嬉しいです。私の商売は、お客様に美味しい食事を提供して喜んでいただき、それを見て自分も喜べる「喜び生産業」だと思っています。

稲城は土が良いので、採れる野菜は甘味があるし味が濃い。それに農家さんがとても勉強していて、環境も重視して減農薬無農薬のために努力されていますから、人間はもちろん虫もムシャムシャ食べるほど美味しい、まさに「これが稲城の味」です！

そのような料理や食材の裏にあるストーリーもお客様に伝えられれば、さらに喜んでいただけると思います。

大人気の超ふわとろオムライスを作る浅野さん

③ 稲城の魅力は、何よりも市民の「稲城愛」の強さです。話していても話題が稲城のことになると止まらないし、商品名に「稲城」と付くと売れ行きが違ったり、「地域のため」となると人の集まり方も違う。みんな“稲城を盛り上げたい”という思いが熱く、熱い思いをもった人がたくさん暮らしているのが稲城の魅力だと思っています。

市民の真ん中に「稲城」があり、昔に比べてまちに緑が少なくなっても、みんな心の中に「みどり」を持っています！

新しい南山のまちにコミュニティを創る

チーム南山
松岡麻美さん 杉山恵理さん 吉本 亮さん（写真左から）

① 私たちは、2015年に開校した市立南山小学校の保護者が加入する「南山小学校サポートチーム」（従来のPTAに相当）の運営組織として、学校との連絡・調整、学校行事のサポート、通学時の子どもたちの見守り等の活動を行っている有志の保護者のチームです。

通学時の子どもたちの見守り

② 開校して間もない南山小学校はPTAもなく、新しく転居してきた家庭が多いために、地域のことが分からず、保護者同士の関係も作りにくい悩みがありました。子どものためにイベントを行おうと思っても、どういう手続きを踏んだらよいか分からず、保護者同士が話せる場が欲しいという声が挙がっていました。

まずは保護者が気軽に挨拶や声掛けできる関係をつくろうということで、当初は“できる人がやれる範囲でやればいい”というスタンスの組織を考えていましたが、行政への要望や災害時の対応など、責任をもって保護者が連携できる組織体制があった方が良いということで、2020年春に「南山小学校サポートチーム」ができました。あえてPTAとしなかったのは、保護者だけでなく地域の様々な立場の方にも関係を広げていきたいという思いからでした。

いまは通学時の見守りなどに自発的に参加してくれる保護者が増えて、まちで会っても挨拶や声掛けができる関係が広がっています。今後は、住民同士がフラットな関係で交流でき、地域のみんなで子育てできるまちになれば良いなと思います。

運動会での受付のサポート

③ 稲城はコンパクトな地域に山や川など起伏があり身近に自然と触れ合えて、商業施設が少なく住宅地が落ち着いているので、子育て世代には良いまちです。

稲城の魅力・稲城市の自慢

愛情をもって育てる 感謝していただく

豊かな水と陽の光から生み出される大地の恵み。
農の営みが市民に身近なことも稲城の魅力の一つです。
そんな稲城の農業をつくり伝えるため
活躍している方々のお話を伺いました。

① 私の活動内容　② 活動への思い　③ 私にとっての稲城の魅力

高尾ぶどうの味を伝える ベテラン生産者

稲城市高尾ぶどう生産組合
原田　實さん

① 稲城の高尾ぶどう栽培は、1972年に押立地区の上原下一さんら数人が始めたのが最初です。需要が伸び悩み始めた梨（当時は長十郎が主力）を補完する「稲城の第二の果樹」として、立川の農業試験場の芦川先生から紹介されたものです。

私の家では、高尾ぶどうの栽培を始める前から、梨や植木を栽培していました。梨づくりは戦前に父が始め、私も高校卒業後から手伝い始めました。やがて、梨の直売所で「高尾ぶどうはないですか？」と尋ねるお客さんが増えてきて、お客さんが求めるものを作ろうと、1975年に高尾ぶどうの栽培を始めました。

最適な収穫時期を見極める

② 高尾ぶどうは甘みが強く適度な酸味があり、粒が大きく種がない魅力的な品種ですが、生育管理が難しく、栽培技術を確立するのに先代の人たちは大変な苦労や努力をされました。本来、高尾ぶどうは粒の色が黒いのですが、粒や房を大きくし過ぎると紫色になって味が落ちるので、いかに粒のつき方や房の大きさを管理して本来の味を出すかが肝要です。私も組合長を4年間務めた高尾ぶどう生産組合では、品評会や技術研修会の開催や販売容器の統一等により、生産者間の品質を安定化するよう努めてきました。

丹精込めた高尾ぶどう

自分が納得のいく味を出せたときは嬉しく思いますし、お客さんには房の形の良さや粒の色づき具合を愛でて、甘い香りを楽しんで、生産者の努力と一緒に爽やかな甘みを味わっていただけたら嬉しいです。

③ 稲城市は都市基盤整備が進んでいて、道路が広いし鉄道駅が6つもあります。派手さはないが必要なものは揃っていて、買い物にも困りません。そういうまちの良いところを残していってほしいですね。

稲城の味を作り上げてきた熟練生産者

稲城の梨生産組合
原嶋　弘さん

① 稲城市の名産品「稲城」は、実が柔らかく爽やかな水分が多い美味しい梨です。東長沼の進藤益延さんが作り出した品種で、1975年から市内の農家で栽培が始まりました。「稲城」という品種は、従来の長十郎や二十世紀と違って受粉が難しいので、いかにうまく交配させるか（花粉を受粉させるか）みんなで研究しました。それから、枝の剪定や交配の仕方など講習会を開いて議論したり試行錯誤して、より美味しく、より多く収穫できる栽培方法を学びあいました。

仲間と栽培技術を学びあう

② 「稲城」は薄味で糖度が低い品種で、美味しくするには自然の力を活用しなければなりません。枝の間隔、一枝につける葉の枚数、太陽光をいかに平均的に果実に当てるか、これらが最適になるよう剪定するとともに肥料の量を管理して、樹勢をコントロールする。それによって梨の味は相当変わります。そして長期間安定的に収穫できるように、実の付き方や大きさを管理します。

梨園は園主の考え方によって、これらのうち何を最も重視するか変わってきます。いかに剪定・施肥・交配を行い自分の味を出していくか。自分のやり方を信じて自分の味を追求していく。そして周辺の住民とも良い関係を作り、梨栽培が続けられるようにする。それが私たちの仕事です。

梨の発送の前に

③ 稲城の魅力は多摩丘陵、多摩川、三沢川といった水と緑に尽きます。宅地開発が進んでも緑が残っていますし、用水路も暗きょにしないで、農家の営みを見える化してほしい。まちの「緑」を担っている農家をいかに存続させるか、私たちも頑張りますが、農家が生き残れるよう制度面でも支援していただきたいです。

お客さんとふれあい稲城野菜の地産地消を進める

百村野菜直売会
内田増雄さん

① 私たちは、現在百村地区で野菜作りをしている10軒の生産農家で構成しています。元々農家は、本には書いてないような農作物づくりの実務を、仲間同士で教えあったり勉強しあって、それが農家のコミュニティにもなっていました。その延長で、生産技術の向上と農家の親睦促進のため20軒の農家で発足し、1995年に向陽台のかめさん公園で野菜の直売を始めました。現在は向陽台の城山文化センター前でも定期的に直売を行っているほか、京王ストア稲城店にも出品し、計3か所で販売しています。

かめさん公園での直売

② 秀品を作ろうと心がけており、納得のいくものが出来てそれを店先に並べられたときは喜びを感じます。お客さんは近隣住民の方が多いですが、地元産の新鮮野菜を買えるので喜んでいただいてます。また、家庭菜園をしている方には、プロのひと手間やひと工夫を教えたり、作物に応じた肥料のやり方を教えたりもしています。このようにお客さんと直接交流し、自分たちの作物を地産地消してくれることが農家には喜びであり、張り合いにもなります。

ある日の直売のメンバー

③ 「ほどよく都会、ほどよく田舎」で、緑が豊かなことが一番です。コロナ禍の自粛生活でまちを散歩することが増えたのですが、稲城の環境の良さを改めて感じました。農地は作物を作るだけでなく、緑の保全、雨水浸透など緑被率や防災面でも貢献していますので、住民の皆さんには都市農業にご理解いただき、農家が存続できるように地産地消で応援していただければ嬉しいです。

稲城野菜を美味しく調理！生産農家と市民をつなぐ

ORTOLANA
上野　聖さん、はる菜さん
垣本美智子さん（後列左から）
7-mira
滝澤暁子さん（写真左端）

① 7-mira（ナナ-ミラ）は、「7世代先の未来のことを想って今の行動や考え方を選ぼう」をコンセプトに、生産農家と消費者をつなぐ活動をしています。稲城の畑で採れた野菜を市内の料理店に卸したり、顧客に直接届けるほか、生産者と市民が一緒にご飯を食べる会や芋掘り会などを行っています。

「オルトラーナ」は、稲城野菜をふんだんに使った料理を提供しているお店です。滝澤さんから仕入れる稲城野菜を活かして、お子さまにも美味しく食べられるメニューを創っています。

稲城野菜をふんだんに使った
オルトラーナのメニュー

② 農家と市民が直接顔を会わせるイベントを行うのは、ネットや印刷物で農家の事情を知っても、なかなか自分の生活に響かないけれど、顔見知りになれば自分のこととして感じられると思うからです。そうして、地産地消や循環経済、持続可能な農業について「当事者」になってもらいたいと考えています。

オルトラーナは今年5周年を迎えました。農家さんが毎日世話をして育ててくれる野菜を、どうしたら、持ち味を活かした美味しい料理が作れるか、喜んで食べてもらえるか、毎日が挑戦です。「以前は市外の店で外食していたけれど、今は稲城で外食できるようになった」「野菜嫌いの子が、ここの料理は平気で食べている！」などのお声をいただき、やりがいを感じます。

オルトラーナで月に1回、稲城野菜などの販売も行っている

③ 稲城は畑や水田、里山の自然が残っていて、採れたての野菜を直接、お店や家庭の食卓に届けることができます。美味しい野菜を育ててくださっている農家さんに感謝しながら、この「畑が身近にある」という恵まれた環境が続いていくように、これからも野菜をたくさん使った料理を研究していきます。

稲城の魅力・稲城市の自慢

まちを思い 人を思い 温かな地域をつくる

稲城市の自慢の一つは、市民活動が活発で、市民と行政が協力してより良い地域づくりに取り組んでいることです。そんな市民を代表して、地域づくりのため活躍している方々にお話を伺いました。

① 私の活動内容 ② 活動への思い ③ 私にとっての稲城の魅力

子どもを中心に地域の人々が関わるコミュニティ

元青少年育成矢野口地区委員会
原田公治さん

① 青少年育成地区委員会は、自然に親しんだり地域と関わって様々な体験をすることで子どもたちが健全に成長するよう、地域の諸団体と連携して活動しています。矢野口は地区内の小字単位で子ども会が存続しており、各子ども会でキャンプや体験農園、レクリエーションなどを行い、地区委員会は子ども会のまとめ役として外部との折衝や、防犯パトロール、伝統行事である塞の神を主催しています。

矢野口の塞の神は、かつては小字単位で行っていました。直径3～4mほどの櫓を組み、中に子どもたちが円になって座り餅を焼いて食べたりしましたが、入りきらないので二重三重に座り、地域の家を回って食べ物をもらってきたりしました。今は矢野口全体で行うようになり、500～600人ほどの方が参加します。その際に豚汁の炊き出しを行いますが、それは災害時の避難所生活を想定して、食事の配給時に混乱しないよう整列して順番を待つ練習も兼ねています。

伝統行事・塞の神のいわれを子どもたちに説明

② 子どもたちは、仲間や地域の大人など色々な人と関わることで、他者と協調したり事の善悪を判断して行動することを学びます。私が地区委員長など役員を務めていたときは、どうしたら子どもたちが自分から動くようになるか考えて接するよう心がけていました。矢野口の子ども会が盛んなのは、お母さん方の力が大きいと思います。お母さんたちの結束力が強いと地域がまとまり、それが矢野口の地域力の原点にあると感じます。

③ 稲城は駅が6つあって移動が便利で、買い物にも不自由しません。まちが落ち着いていて、住みやすいのが魅力です。

人が集い交流する場を創り稲城の魅力を高める

いなぎエコ・ミューゼ
小林攻洋さん

① 私が稲城市の企画課長時代、職員の自主研究グループエコ・ミューゼを立ち上げ、その会で台東区谷中のまちづくりを視察しました。谷中はお寺が多いまちですが、東京芸大の学生が卒論で取り上げ、魅力を言い続けた結果、住民の意識が変わり、まちじゅうを会場にした芸工展を開くなど地域が活性化しました。稲城でもそんな活動をやってみたいと思い、市民も含めた仲間を募って歴史的な建造物や民俗風土を偲ばせる事物、自然景観などの稲城の魅力を発掘し、発信する活動を始めました。

具体的には、まちづくりセミナーやまち歩きの定期的開催、稲刈り後の田んぼでの交流会、まち歩きマップの作成などで、人々が交流し新しい関係を創れる場やイベントを稲城に作っていく活動を行ってきました。

ニュータウン地区のパブリックアートを紹介

大丸用水をガイドするツアー

② 稲城は豊かな自然が魅力の一つですが、最近は若い人がコミュニティカフェを開くなど、人々が交流できる場が増えてきました。そうした場やそこに集まる人たちが相互に交流していけば、まちの魅力はさらに高まると思っています。

施設整備などのハード面だけでなく人々の意識や思いなど、ソフト面からのまちづくりも進めたい。それを市民と行政が得意分野を活かして協働して行えば、稲城はさらにより良いまちに育っていけると考えています。

③ 稲城は人情が温かく、自然環境と住宅地のバランスや、昔からのまちとニュータウンのバランスが良く、その中に大丸用水のような歴史的遺産も点在しています。最大の魅力はキャンプ村や三沢川清掃など、熱意のある若者の発案で始めた活動を行政が後押しして実現した事業が多いことでしょう。そうした熱い思いを持った人と人をいかにつなげていけるか、まちづくりは"人"にかかっていると思います。

夢を持ち夢を叶えるため行動する女性たち

国際ソロプチミスト稲城
田村俊枝さん(写真右)　江口浩子さん

1 国際ソロプチミストは、約130の国と地域にクラブ(支部)があり、女性の地位と生活を向上させる活動をしています。稲城は東京で3番目、多摩地区では最初のクラブとして1979年にスタートし、2019年に40周年を迎えました。

私たちの事業として、市内の中高生を隔年で2名ずつ海外へ派遣し、2018年の事業終了までに30名近い生徒を送り出しました。また、「10年後に残したい稲城」をテーマに市内の子どもたちから絵画を募集し公共施設で展示したり、東日本大震災の被災地支援として「編み上げタワシ」「復興ぞうきん」の材料を被災地へ送って製品に加工してもらい、稲城で販売して売上を送っています。

三沢川桜・梨の花まつりではお花を販売

三沢川桜・梨の花まつりなど市内のイベントに出店して売上を寄付事業の資金に充てており、南武線3駅前のなしのすけ時計台、市立病院やiバス停留所等のベンチ、地域振興プラザの拡大コピー機などを寄付しています。

Iのまちいなぎ市民まつりで被災地支援

2 私たちが奉仕事業として寄付を行うのは皆さんの喜ぶ顔が思い浮かぶからで、私たちに期待してくださることを嬉しく思います。

私たちは「夢を拓く」をテーマに、女子中高生のキャリアサポートにも取り組んでいます。夢を描くのが難しい時代、彼女たちが夢を持ち、その実現に向けて行動する力をつける支援をすることで、夢を叶える女性が増えることは私たちの夢でもあります。

3 昔ながらの景色や旧道が残っていて、稲城は懐かしさを感じさせるまちですが、若い方や子どもが増えて活気も感じます。今後は、気候変動や自然災害、疫病など環境を保全しないと深刻化する問題が多く、自然と住環境の共存が重要だと思います。

稲城は市民と行政の協働で作り上げたまち

東長沼自治会
川島幹雄さん

1 私が東長沼自治会の会長になったとき、地区には長年の課題がありました。昔の村の時代の名残である「一村共有地」等の問題で、東長沼だけ未解決だったため、以前から自治会の法人格取得に取り組んできていました。

自治会の法人格取得には、「地域住民の相当数が加入」「規約の改正」「全員総会での承認」という条件をクリアする必要があります。そこで、防犯パトロールや防災訓練による安全安心なまちづくり、災害時に高齢者や障がい者を支援する仕組みづくり、アダプト制度を活用した花壇整備など地域環境の美化、地区運動会をはじめイベント等による地域の賑わいづくりなど、自治会の存在価値を高め、住民の信任を得るための取り組みを進めました。

その結果、皆様からのご賛同をいただき平成30年5月に稲城市より「地縁団体法人 東長沼自治会」として認可されました。

ペアパークでの花壇整備と防災訓練の後で記念撮影

2 自治会の存在価値を高めることは、住民の理解や評価を得て、賛同・協力してくれる仲間を作る「地域の人間関係づくり」でもありました。取り組みを進めることで、「自治会活動に行けば、みんなに会えて話ができる」と参加してくれる人が増え、高齢者の方がやりがいを感じて積極的に参加してくれるようになりました。

毎月行う防犯パトロール

自治会協力者の輪が拡がった結果、協力者自身も楽しめるコミュニティが形成されていきました。自治会の活動方針や計画も、仲間が身近な人たちに伝えてくれることで住民の間に浸透しました。

3 稲城市は、市民と行政が一緒に汗を流し、作り上げてきた協働・協創のまちです。自治会の事業でも、行政に協力してもらう場面が多々あります。これまで大きな事件や事故、災害被害がなく、穏やかに暮らせるのも、市民と行政が協力して良いまちづくりに日々努力している成果だと思います。

稲城の魅力・稲城市の自慢

市民の心のつながりが まちの安全安心をつくる

「子育てしやすいまち」「安全安心のまち」といわれる稲城。それを支えているのは市民の絆と「自分たちのまちは自分たちで守る」意識です。安全で安心できるまちづくりのため活躍している方々のお話を伺いました。

① 私の活動内容　② 活動への思い　③ 私にとっての稲城の魅力

安全安心なまちをつくるリーダー

多摩稲城防犯協会
奈良部義彦さん

① 多摩稲城防犯協会は、民間の立場から多摩中央警察署と一体となって「犯罪のない明るい街づくり」を推進するボランティア団体です。私は東長沼自治会長に就任した時から関わり、25年以上になります。その当時、東長沼地区は東京都の中で犯罪の多い地区ワースト5に入るような状況で、私は都が始めた防犯アカデミーに通って、「割れ窓理論」や「ボンド理論（社会的絆理論）」などを学びました。

そこで、地域の絆づくりのイベントを開催したり、地域の人が見守っていることをアピールしようとグリーンの帽子とベストを作り、それを着けて見回りを続けるなどした結果、稲城市は犯罪の少ない「安全安心のまちNo.1」として知られるようになりました。その後も、毎年5月に市内全域で行う「駅伝防犯パトロール」や年2回の「市内一斉防犯パトロール」を始めるなど、市を挙げて強力に防犯に取り組んでいます。

駅伝防犯パトロール

② 私は今、稲城市に警察署が開設されるよう提唱しています。これから市内で様々な事業が進み、観光客など稲城を訪れる人が増えていくなかで、まちに警察署がない現状では安全安心を守れない恐れがあります。安全で安心なまちでないと、人は訪れないし住みたいとも思いませんので、関係先の協力もいただきながら警察署の開設を実現させたいです。

③ 安心して子育てできる安全安心のまち、それが一番だと思います。緑が多くて環境が良く、子育てに最適なまちで将来が楽しみです。私が色々な地域活動をしているのも、稲城のまちは手をかければかけるほど良くなる伸びしろがあるからです。

女性ならではの防災活動を通じたコミュニティの活性化

稲城市女性防火クラブ
岩田光子さん

① 稲城市女性防火クラブは、東京都内で最初の女性による防火クラブとして1982年11月に43名で発足し、2022年11月で40周年を迎えます。当初は稲城市婦人防火クラブという名称でしたが、市内在住の女性なら誰でも参加いただけるように稲城市女性防火クラブに名称を変更し現在68名で活動しています。

活動としましては、年初の消防出初式での徒列行進やお汁粉の配布、防災訓練では災害時の避難所生活を想定した炊出し訓練への参加、毎年の救急救命講習の開催及び受講、年2回の火災予防運動では、広報車での火災予防広報活動や大規模商業施設での店頭広報活動など防火・防災意識の啓発を行っています。

また、市内一斉防犯パトロールへの参加、Iのまち　いなぎ市民まつりや桜・梨の花まつりでの出店など、関係団体と協力して地域に根差した活動をしています。

消防出初式にて

② 私たちは、例えば避難所生活は皆さんが少しでも安心して過ごせるように笑顔で明るく、女性ならではの気配りや経験を活かして、「自分の家庭は自分で守る」「自分達の街は自分達で守る」をモットーに、防災意識の啓発活動を通じた地域コミュニティの活性化のお役に立てればと考えております。

放水訓練も行う

③ 稲城市は市民活動をしている女性が多く、皆さん住んでいる地区を超えた知り合いがおり、互いに声を掛け合える心優しいまちです。今はコロナ禍で顔を合わせることが難しいですが、気心が知れている者同士、強い団結力で結ばれていると感じます。早くまた、皆さんと明るく楽しく活動ができる時を心待ちにしています。

有事に備え 住民防災意識の高揚と継続に向けて

東長沼自治会自主防災組織
石田浩史さん

1 1997年に発足した東長沼自治会自主防災組織は、「将来の防災を担う子どもたちの育成」「幅広い世代に迅速な情報提供」「情報を共有して災害の少ない街へ」を、防災・減災への取り組みの三本柱として活動しています。

年初に行われる塞の神での初期消火訓練や自治会女性部会にご協力をいただいての炊き出し訓練、稲城第一中学校や第三中学校での防災訓練への協力、各種SNSを活用しての情報発信、地域全体を網羅した大判の住宅地図を作成し有事の際に避難行動要支援者や被害の状況を共有できる仕組みづくり、日頃から他団体の活動に参加することによる地域の人間関係づくりなど、有事に備えた活動を行っています。

塞の神での初期消火訓練

2 災害時には自分の命は自分で守ることが基本になりますので、「防災は日頃からの個人の自主性と継続が非常に重要」であることをお伝えしています。

また、自主防災組織の取り組みには、有事の際に被害を極力減らすための活動や実災害時での対応等という面もありますが、活動していただいている方々の安全確保や活動に対する負担の軽減、そして何より「いかに気持ちよく活動していただくか」が非常に重要だと思います。そんな中、今後の課題として災害時に一生懸命行動した結果による事故等の免責についても重要になってくるのではないかと思います。

3 防災活動は、組織を超えた横のつながりが重要です。稲城市は防災に直結する消防本部や地元の消防団、市役所職員との顔が見える関係（横のつながり）が築きやすい環境であると感じており、それは当市行政にはフレンドリーな面もあり相談がしやすく、地域住民の味方になってくれる職員が多いからだと思います。「防災は様々な視点や協力がないと難しい」といわれる中で、地域防災の実務を担当する者として稲城市のこの環境はとてもありがたいです。

安全安心なまちを守る消防分団のまとめ役

稲城市消防団
馬場芳則さん

1 都内の市で唯一独自の消防本部で消防・救急業務を行っている稲城市には、8つの消防分団があり、現在175名の団員がいます。消防団員は、職業を持ちながら「わがまちは自分たちで守る」という使命感のもと、平常時には火災予防の広報活動や消防・救命訓練、地域の行事での警戒活動などを行い、災害時には消火・防災活動や住民の救護・避難誘導、現場での警戒・広報活動を行います。消防団本部は、分団のまとめ役として消防本部と連携・調整を図りながら、これらの活動の指揮や支援にあたります。

消防用機器の取扱い・操作技術を競う消防操法大会

2 私の住む平尾では、かつては地区内の半数の家から分団員を出していたそうで、多くの先輩方が安全で安心できる地域を作り守ってきてくれました。それを引継ぎ、次世代へ繋いでいくのが私たちの役割だと思っています。

消防団は幅広い年代の人が世代を超えて交流でき、対等な立場で同じ目的のために活動できる、社会教育の場でもあります。安全安心なまちづくりに貢献できて、危険に備えたり回避する思考や行動を習得できます。最近は女性団員も増えてきて、災害時の活動の他にも、広報やSNSを活用した情報発信など、特性を活かした活躍をしてもらいたいです。

放水訓練

3 "半分田舎で半分都会"の稲城は、地域の人たちの中に、地味だけど着実なヨコのつながりと、世代を超えたタテのつながりがあって、古いものを守りながら新しい考えを持ってやっていこうという「不易流行」の気質があります。地域の人たちが一緒に飲みながら、「何か面白いことやろうよ」とプランを考えるような、和やかで活気のあるところが好きです。

稲城の魅力・稲城市の自慢

スポーツを通じて健康づくり、人づくり、地域づくり！

「市民ひとり1スポーツ」を掲げる稲城市では、平日・休日を問わず早朝から夜まで、思い思いのスポーツを楽しむ市民の姿が見られます。そんな元気な地域づくりのため活躍している方々にお話を伺いました。

① 私の活動内容　② 活動への思い　③ 私にとっての稲城の魅力

自転車を愛し「自転車のまちづくり」を進める

自転車ロードレーサー
栗栖　嵩さん

① 北海道で過ごした大学時代、「自転車で北海道を旅してみないか」というサークルの呼び込みにひかれて初めてロードバイクを購入、道内はもとより本州から沖縄までツーリングを楽しみました。「ツール・ド・北海道国際大会」に出場したのを皮切りに、社会人になってからは実業団チームに所属し、国内のプロレースや世界各国で開催されるUCIグランフォンド世界選手権にビジネスマンレーサーとして出場しました。

今は建設コンサルタント会社であるパシフィックコンサルタンツ株式会社に所属し、国土交通省や自治体の自転車活用推進計画等、自転車とまちづくりに関わる業務の責任者を務めたり、自社で開発した旅と自転車のポータルサイト「TABIRIN」の運営などを行っています。

② 人々の健康志向や、自分の力で走る楽しさ・爽快感から自転車人気が高まっています。自転車で走ると、景色やその場の空気感が変わっていくのを五感で感じられますし、季節や時間帯によって、同じまちでも様々な表情を見ることができます。ぜひ交通ルールやマナーを守りながら、自転車でまちの新たな魅力を発見してみてください。

③ 稲城は自転車を楽しみやすいまちだと感じています。特に南多摩尾根幹線道路は、適度にアップダウンがあり信号が少ないので、気軽にロードバイクの楽しさを味わえると思います。以前は、東京はビルとコンクリートの街というイメージでしたが、稲城に住んでみて緑の豊さに驚きました。走っていて気持ちのいいまちです！

ポーランドで開催されたUCIグランフォンド世界選手権2019を完走

感謝と尊敬の心を広める世界チャンピオン

伊原道場稲城キックボクシングジム
重森陽太さん

① 5歳の時からキックボクシングを始め、小学2年生のときタイで初めてムエタイの試合に出場。異国の地で一人でリングに立てたという自負から、夏休みは毎年タイで練習を積み、日本でも練習に没頭する毎日を過ごしてきました。今は正社員として企業に勤めながら、伊原道場稲城キックボクシングジムに所属して日々トレーニングに励んでいます。

② ジムにもタイ人のコーチがいますが、子どもの頃からタイの方たちにお世話になってきて、"自分の師と親に感謝し、対戦相手をリスペクト（尊敬）する"ムエタイの精神がとても素晴らしいと感じています。その精神を日本に広めていきたいし、将来はムエタイのタイトルも獲得して、タイの方たちへ恩返しをしたいです。

ボクシングは身体と身体がぶつかり合うコンタクトスポーツなので、不平等にならないよう体重制になっていますが、ジムでは年齢や性別は関係なく、互いの違いを超えて相手を気遣い、自分を成長させていけるのがボクシングの素晴らしい点だと思います。

③ 子どもの頃から稲城道場で大人と一緒に練習させてもらってきましたが、常に私と同じ目線で対等に接してくれました。いま、タイ人コーチのもとで子どもたちが練習に励んでいるのを見ていても、本当に楽しそうです。子どもの頃から自分とは異なる文化を持つ人と接し、交流する経験を重ねることで、差別やいじめもなくなると思います。

WKBA世界ライト級チャンピオン、KNOCK OUT第10代日本バンタム級王者、第9代日本フェザー級王者（2階級制覇）を獲得

ジムの仲間と中学生時代の重森さん（後列左から4人目）

生涯スポーツを通して稲城らしい人づくりを目指す

稲城市体育協会
田中繁夫さん

1 私が会長を務める稲城市体育協会は、市内の各スポーツ競技の連盟・協会21団体が加盟し、稲城市の体育・生涯スポーツの振興、市民の健康増進と体力向上を目指して、稲城市スポーツ大会や市民体育大会等の開催、各種スポーツ教室や研修会などの事業を行っています。現状は各競技団体の取りまとめ・調整役としての活動が主ですが、今後は市民のスポーツ団体や各地区の体育振興会とコラボレーションして、直接的に市民へ向けた健康情報を発信するなど、市民の皆さんが身近に健康づくりやスポーツに親しめる環境を整えていきたいと考えています。

2 今回のコロナ禍を経験して、人々のライフスタイルは今後変わっていくと思われます。ワークライフバランスや心身の健康的な生活がより重視されるようになり、農や食・スポーツを通じて地域と繋がり、自己のあり方を見つめ直す人も増えるでしょう。その中で、日本人として確固たる自己をもち、他者と協調・融和していける人づくりを、スポーツを通じて行っていければと思います。

3 稲城市は、これ以上、緑をなくす必要はありません。これからは残された自然を次世代へ引き継ぎ、豊かな自然の中で私たちの先輩方が育んできた昔ながらの人付き合い、助け合い、支え合い、人々の絆を大切にした、稲城らしいまちづくりを進めていって頂きたいと思います。

稲城市スポーツ大会開会式

率先してグラウンドの草刈りも

100年先の子どもたちも胸を張れる稲城のスポーツクラブを目指す

iクラブ
島　啓子さん

1 私が会長を務めているiクラブは、国の政策に基づいて各自治体に設けられた総合型地域スポーツクラブです。「だれでも どこでも いつでもスポーツを」を合言葉に、小さなお子さんから高齢の方まで、市民の皆さんが日々の暮らしの中で気軽にスポーツを楽しむことを通じて、健康で笑顔あふれる地域の居場所となれるクラブを目指して、様々なスポーツ種目やダンス、体操などの体験イベントや教室プログラムを行っています。

　また、高齢者の方々による自主介護予防グループの立ち上げと活動の支援や、里山の自然の中でスポーツや農作業を体験するイベントなども行っています。

2 膝痛に悩む方が体操教室を続けるうちに痛みを忘れてしまったり、運動が苦手だけどチアダンスや体操教室を頑張った子が、クラスの最後に「運動を嫌いにならずに済んだ」と喜んでいたときには、天にも昇る思いでした。

　今後は、私たちと一緒に熱意を持って教室の指導やクラブの運営に参加してくれる方を増やして、世代循環も進めていきたいと考えています。

3 稲城は人と人のつながりが、他所より強いように感じます。そのつながりを大切にして、稲城の豊かな自然の中で身体を動かすことを楽しみながら、人と人との交流がより広がっていくようなイベント等も考えていきたいです。身体を動かすのは楽しいですよ！

グラウンドゴルフ

Iのまちいなぎ市民まつりでのチアダンス

稲城の魅力・稲城市の自慢

豊かな自然と歴史！！ 稲城の魅力を発信！

大規模な観光スポットこそないものの、豊かな自然と歴史をもつ稲城市は魅力の宝庫。そんな稲城の魅力を発信し、地域活性化のため活躍している方々にお話を伺いました。

① 私の活動内容　② 活動への思い　③ 私にとっての稲城の魅力

まち歩きを通して稲城を楽しみつくす案内人

いなぎ観光案内人
木戸博光さん

① 「いなぎ観光案内人」は、市民や稲城を訪れた方に観光スポットや歴史など稲城市の魅力をお伝えするガイドです。稲城市観光協会に所属する市民ボランティアで、現在の主な活動内容は観光ウォーキングツアーのコースの企画や実地調査、ツアーの解説内容の検討、他市の観光案内所との交流、ツアー当日のガイドと参加者のアテンドなどです。

観光ウォーキングツアーにて

② 稲城は、大規模な観光スポットこそありませんが、豊かな歴史や伝統文化が息づいていて、旧街道筋の石碑などにも連綿と受け継がれてきたストーリーがあり、歴史の流れの中で地域をとらえると興味は尽きません。私たち観光案内人が研鑽を積んでレベルを向上させれば、同じ2～3分間の説明でも参加者にお伝えできる内容は違ってきます。稲城に来た方が楽しめるか、私たちにかかっていますので、事実の伝達だけでなく聴く方の想像力をかきたてるような説明を目指しています。

稲城のまちは歩けば歩くほど、その魅力が感じられます。旧道や里山、田畑からかつての暮らしぶりを偲んだり、季節の草花、鳥のさえずり、虫の声、せせらぎ等々を参加者と一緒に楽しめたら嬉しいです。

③ 稲城は歴史の宝庫です。自分のモノの見方だけでなく、様々な人と交流して多様な見方で稲城を見てみると、新しい発見や楽しみがあると思います。私自身、一人でまち歩きをする楽しみに加えて、ガイドを通してみんなで歩くという新しい楽しみを知りました。みんなで歩くと、稲城は面白いですよ！

観光の最前線で稲城の魅力を伝える

いなぎ発信基地ペアテラス
北條一喜さん

① 「いなぎ発信基地ペアテラス」は、市民からの公募で名称が決まった稲城市の観光案内拠点です。

稲城市民・稲城市を訪れた方・近隣地域の住民に、稲城市の観光名所や市内に点在する大河原邦男先生デザインのキャラクター像等を紹介したり、いなぎの名産品や市内商店・クリエイター等の商品・グッズ販売、姉妹都市・友好都市の物産品販売、市内学校からの見学受け入れ、イベント会場・ギャラリー、そしてカフェと、その役割は非常に多岐にわたります。コーヒーやお菓子で憩う市民、キャラクターモニュメントを撮影する来街者、遊びに来た若い親子連れなどで賑わっています。

② 観光スポットをはじめ名産品やイベント、グルメなど市内の様々な情報を網羅してお客様へご案内し、「そこへ行ってみたい」「稲城に来て良かった」「こんなことを知った」と喜んでいただけるよう、スタッフ一同、日々努力しています。

また、稲城を訪れた方が最初に接するのが私たちですので、稲城ブランドを背負った市の代表として、真心の笑顔でフレンドリーに接するよう心がけています。

笑顔で接客

③ 緑に包まれた里山と暮らしやすい住宅地が一体となった稲城市。水車のあるせせらぎの上谷戸親水公園や、静かで趣きのある雑木林の稲城中央公園、星が見えるまち長峰やくじら橋からの眺望など、魅力は尽きません。

私も稲城の魅力発信者の一人として、より多くの方にお伝えし、まちの盛り上げに尽力したいと思っています。

Ⓐ活動への思い Ⓑ私にとっての稲城の魅力

元タカラジェンヌの稲城っ子 観光大使

朝央れんさん
Asao Ren

Ⓐコロナ禍で皆さんとお会いできるイベント等が開催できないので、現在はインスタグラムで稲城の魅力を発信しています。私は踊ることが大好きで、観光大使に就任してからも地域の盆踊りに呼んでいただいて櫓の上で踊ったりしました。コロナ禍が収束して市民の皆さんとお会いできるようになったら、一緒に踊ったり唄ったりしたいです！

Ⓑ生まれ故郷の稲城には、16歳まで住んでいました。小学生の頃は多摩川の河原に秘密基地を作ったり、大丸用水でザリガニを捕ったりして遊びました。稲城は里山があり川もあって、豊かな自然に包まれて温かい心の方が多い愛(ｉ)のまちです。市民が「稲城に住んで本当に良かった」と思えるまちが、この先も何十年も続くよう祈っています。

稲城市出身。2007 年宝塚音楽学校入学、2009 年宝塚歌劇団に入団し、宙組に配属される。在団中は長身の男役として「ベルサイユのばら」「風と共に去りぬ」「エリザベート」など多くの人気作品に出演した。2018 年 6 月「天は赤い河のほとり」「シトラスの風 -Sunrise-」のホレムヘブ将軍役を最後に退団。

熱い思いで稲城を盛り上げる 観光大使

花枝　聖さん
Hanaeda Hijiri

Ⓐ稲城で活動していると、多くの人と顔が見える関係が築けて、人との心の距離が近く感じられます。稲城は、まちの規模感もちょうど良く、〝あの人は今どんな活動をしているのか〟が互いに分かって、つながりが生まれやすい。自然環境やまちの規模、人との距離感が、そうさせてくれるのかなと思います。

観光大使としては、地域の魅力を発信するのに、数年前と今とではできることもやり方も変わっていますので、様々な活動をする人たちとコラボレーションしながら、自分を含めてみんなの個性や能力を活かしていけるよう活動をしていきたいです。

Ⓑ稲城の魅力は、人の温かさにあると思います。自分の活動はもちろん、お店もイベントも続けることができたのは、自分の力だけではなく稲城の人たちが気にかけて力を貸してくれたおかげです。稲城の自然は形を変えたとしても、包み込んでくれるような人の温かさは変わらない。自分もその思いに応えていきたいと思います。

京王よみうりランド駅前でカフェ＆レストラン「green world cafe」を経営。コミュニティカフェとして、音楽ライブなど多彩なイベントを行うほか、南山の自然の中での音楽祭「いなぎ森フェス」の主催や多くの地域イベントに出演している。オリジナルソング「いいな！いなぎ」は稲城のテーマソングとして多くの市民に親しまれている。

世界を魅了する歌声の 観光大使

福田美樹子さん
Fukuda Mikiko

Ⓐ地域の小学校で読み聞かせの会をしたりボイストレーニングの体験授業やミニコンサートを行ってきましたが、そのような音楽体験を通じて、音楽の楽しさを感じてくれる子どもが増えたら嬉しいです。音楽を毎日の生活の中に取り入れることで、心の健康にも良い影響があると思いますし、多くの人に音楽で元気を与えられたら、と思います。

市内で活動する人たちと事業所、お店などが互いに協力し合って、稲城を盛り上げていければ良いですね。

Ⓑ稲城に住んで15年になりますが、子育てを通じて地域に多くの仲間ができました。稲城はまちが落ち着いていて、住んでいる人が穏やかで温かく、互いに協力しようという気風があります。子育てもしやすく、本当に素晴らしいまちです。

コロラトゥーラソプラノ歌手。国立音楽大学卒業後に単身渡欧し、バルセロナ・リセウ高等音楽院を最優秀にて卒業した。カルメン・ブスタマンテ氏に師事しスペイン歌曲やイタリア・オペラを学び、パリ市立音楽院などでマディ・メスプレ氏に師事しコロラトゥーラのメソッド、フランス歌曲、オペレッタなどを学んだ。欧州や国内で数多くの演奏会やリサイタルに出演し、2016年にファーストアルバム「歌う思い出」を発表、2020年に稲城市立iプラザホールでセッション録音したフランス歌曲集「あなたなんか愛していない」をリリースした。

子どもから大人まで幅広いファンをもつ 観光大使

龍井一磨さん
Ryusei Kazuma

Ⓐ大阪でバンド活動をしていた頃は、ライブ会場に来た人にしか思いを伝えられませんでしたが、稲城では仲間とイベントを開催したり地域のイベントに出演することで、より多くの人や普段はライブに来ないような人にも思いを伝えられます。稲城は地域でそういう活動をできる場があったり、自分たちで作れることが素晴らしいです。

今は多くの人に集まってもらって思いを伝えることが難しいので、テレビ等で僕を観てくれている人の目が地域に向くように、稲城の魅力を様々なフィールドやメディアで伝えていきます。

Ⓑ稲城では、知らない人とでも気軽に挨拶を交わせるような雰囲気があって、「人と関わろう」という積極的な気持ちを持っている人が多いと感じます。三沢川の桜並木や里山など、自然に触れ合うことで人の気持ちも優しくなるのかな。市内に広がる豊かな自然が人の心の温かさにつながっていると思います。

シンガーソングライターとして、市内外の年間50本以上のライブ・イベントへの出演や、企業への楽曲提供などで活躍中。また、ヒーローシンガーソングライターとしては、保育園・幼稚園などでのミニライブ展開もしている。160か国以上で放映されているテレビアニメ番組の日本語吹き替え版「パウ・パトロール」にパウパトダンスをレクチャーする「りゅうせいお兄さん」としてレギュラー出演中。

ふるさと稲城を語る

メカニックデザイナー 大河原 邦男さん

1947年稲城市出身。アニメーション作品における日本初のメカニックデザイナーとして、「科学忍者隊ガッチャマン」「タイムボカンシリーズ」「機動戦士ガンダム」など多くの人気作品のメカデザインを手掛け、世界中にファンがいる。近年ではプロダクトデザインにもフィールドを広げ、ますます精力的に活動を展開している。稲城市では、2015年から「メカニックデザイナー大河原邦男プロジェクト」を実施し、氏の作品モニュメントの設置や「メカデザイナーズサミット」の開催などを通して、まちの魅力向上や地域活性化に取り組んでいる。

子ども時代の稲城

私の家は、先祖が江戸時代から東長沼地区に住んでいて、私の兄で11代目になります。

子どもの頃の東長沼は、水田と梨園が広がる中に農家が点在する"日本の原風景"のような景色でした。私の家から、多摩川の土手を歩く人が見えたものです。

その頃は大丸にあった旧陸軍弾薬庫の関係で進駐軍の兵隊が多くいて、米軍の建設機械が道路を整備しているのを見て、機械への興味を感じるようになったのかもしれません。家にある機械を分解して仕組みを調べたりしていました。米軍の軍用機もよく上空を飛んでいて、それを絵に描くようになりました。

メカニックデザイナー黎明期

都立町田高校を卒業後、東京造形大学の一期生としてビジュアルデザイン科に入学し、2年目からテキスタイルデザイン科に移って織物や染物を学びました。卒業して服飾メーカーに就職しましたが、1972年にタツノコプロダクションに入社、美術部門へ配属されました。

はじめはアニメの背景画などを描いていましたが、そのうち上司の提案で、新しく始まる「科学忍者隊ガッチャマン」というアニメ番組のメインスタッフとして、メインメカを除きすべての敵メカのデザインを担当することになりました。幸い、ガッチャマンは好評を得て、2年間105本続きました。

当時は、日本初のテレビアニメ「鉄腕アトム」の放送が始まってから10年も経っておらず、アニメ作品の作り方は手探りの時代でしたが、手探りならではの面白さにあふれていました。タツノコプロには、天野喜孝、布川ゆうじ、秋本治、高田明美など、後に有名になる10代～20代の若者がいて、より良いものを創ろうと創意工夫に燃えていました。

私たちの頃は、チャンスがあれば「何でもやります！」と意気込みの強い者が多く、その中から次の企画や新しい発想が出てきましたが、今は「自分はこれがやりたい！」という思い入れの強い人が多くて、新しい発想がなかなか出てこない。これはアニメ界のためには良くないことだと感じています。

メカニックデザイナー大河原邦男プロジェクト

昔から父に「地域に貢献できることがあるならば、やりなさい」と言われていたので、髙橋市長から「メカデザイナーズサミット」の依頼があったときは快諾しました。うちの事務所の社長（家内）からも、「稲城市の仕事は最優先でやりなさい。それで入ってきたお金はすべて寄付しなさい」と言われているので（笑）。

市の公式キャラクター「稲城なしのすけ」については、全体の形を創るのがデザイナーである僕の仕事で、それにポーズを付けたり動かしたりするのが、マルチクリエイターの井上ジェットさんの仕事です。なしのすけの角はガンダムを模したものですが、タイムボカンシリーズでコミカルな可愛いメカキャラクターをデザインしていたので、ああいうのは得意なんです。

稲城市には、農協の役員を務めていた父が大変お世話になり、その恩返しと思ってプロジェクトに参加させてもらってきましたので、あの世へ行ったとき、父に「稲城市で、これだけやってきたよ」と胸を張れるかも知れません。そういうことが出来るようになった幸運、幸せに感謝したいです。

稲城の魅力

子どもの頃は「稲城は田舎で何も無いな」と思っていました。小学校にプールがなくて、体育の授業で多摩川へ泳ぎに行ったり、夏休みの間はほとんど多摩川で遊んでいました。中学校は、今の第一中学校が稲城中学校という市内唯一の中学校で、坂浜・平尾から矢野口まで市内全域から生徒が通ってきていましたので、今でもまちを歩いていると昔の友達に会って、稲城弁でしゃべったりしています。若い頃は他の土地へ行きたいという思いもありましたが、今はかけがえのない故郷だと思っています。

多摩川や里山という自然環境は、他所では味わえない稲城の財産です。ウォーキングで多摩川の土手をよく歩きますが、お金では買えない価値のある多摩川が身近にある有難さ、そういう稲城の価値を多くの人に知ってもらい、いつまでも残していきたいです。

1958年ごろの東長沼地区の風景
（撮影 浜田英夫さん）

メカニックデザイナー大河原邦男プロジェクトポスター
©K.Okawara・Jet Inoue　©サンライズ　©創通・サンライズ
©タツノコプロ・読売テレビ2008

稲城のまちづくり

子育て·教育·文化　保健·医療·福祉　環境·経済·観光　都市基盤整備·消防·防犯
市政·行政　稲城のみらいを創る子どもたち

50th Anniversary
INAGI CITY

稲城市制施行50周年記念
「私の好きなまち"いなぎ"フォトコンテスト」
最優秀賞
「雪降る春の日」
撮影 三島成実さん

まちづくりの基本目標 I

育ち・学びを通じて
だれもが輝けるまち――稲城

子育て・教育・文化

核家族化の進行や地域社会のつながりの希薄化等、子育てをめぐる家庭環境や地域社会が変化している中で、妊娠から育児に至るまで親と子が健やかに成長していくために、地域社会全体で支援するまちづくりを目指します。

また、教育の目的は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた、心身ともに健康な国民の育成にあります。

稲城市は、義務教育課程や生涯学習プログラムの充実、文化・芸術等に親しむ機会の拡充等を通じて、学習意欲を持ち、だれもが生涯にわたり心豊かで充実した人生を送ることができる社会の実現を目指します。

子育て中の親子が自由に過ごせる子ども家庭支援センターの「あそびの広場」

1 育ち育てる力の充実

育ち育てる力をみんなで応援できる地域社会をつくるため、市民、地域、関係機関及び行政がそれぞれの役割を明確にし、全ての子育て家庭への支援を充実・強化します。

2 生きぬく力の育成

次代を担う子どもたちが、未来を生きぬく力を身に付け、持続可能な社会づくりを担う市民になるための素地を養う教育を振興します。また、学校生活を安全・安心で快適に送ることができるよう教育環境を整備します。

南山小学校の起業家教育。模擬会社を設立して稲城の魅力をアピールする商品の企画から販売までを体験

3 生涯にわたる学習活動と文化・芸術の振興

様々な講座が受講できる市民大学「いなぎICカレッジ」。修了生が立ち上げる市民活動も多い

芸術文化を高め、広め、育むための稲城市芸術文化団体連合会が行う稲城市民文化祭・稲城市芸術祭

市民一人ひとりが自ら未来を切り拓いていくために、生涯学習の重要性と必要性はますます高まっています。全ての市民が世代に関わらず、学びながらいきいきとした暮らしを送れるよう、生涯学習を通した「自己実現・共生・稲城らしさ」の実現を目指して効果的な取組みを推進します。

まちづくりの基本目標 Ⅱ

だれもが地域で健やかに暮らせるまち――稲城

保健・医療・福祉

市民一人ひとりが自分の健康に関心を持って生活し、安定した社会保険制度や身近な地域医療を利用しながら、生涯を通じて心身ともに健やかに暮らすことのできる地域社会を目指します。

さらに、全ての人が地域の中で、安心して自立した生活を送ることができるよう、互いを理解し合い、地域で支え合う、快適に住み続けられるまちづくりを推進します。

オーエンス健康プラザで行われるプールを使った健康増進のプログラム

1 健やかな暮らしと医療の充実

乳幼児から高齢者までだれもが安心して健康に暮らすことができるよう、市民の健康づくりと病気の予防を支援するとともに、身近で医療サービスが受けられるよう地域医療の充実を図ります。

また、市民のだれもがかかりつけ医等を持つことを推進し、市立病院をはじめとした病院と診療所の病診連携を図りながら、市民の健康を保持・増進するとともに、医療体制を充実させます。

2 安心して暮らせる地域福祉

地域において、個人の意思が尊重され、自立した生活を安定的に送れるよう、必要な福祉サービス等の支援を包括的に提供するとともに、ともに助け合い、支え合う地域の体制づくりに努めます。また、安心して暮らし続けられる地域福祉を推進します。

障がい者の重度化、高齢化、親亡き後を見据えた地域生活支援拠点の整備

在宅医療･介護連携を推進するために市内の様々な関係者が集まり開催される多職種連携研修会

被保険者の理解に向けた、きめ細やかな窓口相談の実施

3 公的医療保険と年金制度の推進

だれも必要とする医療サービス等の制度を持続可能とするために、受益と負担の公平性を確保しながら、健全で安定した公的医療保険等の社会保険制度を適正に運用します。

まちづくりの基本目標 III

水と緑につつまれ 活力あふれる
賑(にぎ)わいのまち――稲城

環境・経済・観光

稲城市は、多摩丘陵の東端に位置し、豊かな緑と多摩川や三沢川、大丸用水等の豊富な水を活かしてまちづくりを行ってきましたが、都市化の進展や人口の増加、地球温暖化の影響等により、市の置かれている状況は変化しつつあります。緑を保全し、市民と企業、行政等が一体となって、人と自然が共生できる環境づくりに取り組み、将来にわたり里山等の自然と生活が近接した良好な環境の持続に努めます。

また、良好な自然環境と生活環境に加え、特色ある都市農業や地域に根ざした商工業等の経済活動、スポーツ・レクリエーション活動等で生み出された魅力を観光資源として活用することで、さらに賑わいのあるまちづくりを推進します。

駒沢女子大学アクティ部と連携して特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除を行う「稲城市外来生物駆除ボランティア」

1 地域循環共生圏形成の推進

人と自然、人と人とが共生できる環境のまち稲城を将来の世代へとつなげるため、環境負荷の低減と地球温暖化に伴う気候変動に適切に対応します。また、公害対策や環境美化により、豊かな自然環境と生活環境を守り、多くの恵みをもたらす生物多様性を保全し、地域循環共生圏の形成を推進します。

2 豊かな水と緑のあるまちづくり

緑豊かな環境を将来に継承し、貴重な財産である自然景観を維持していくため、緑の保全と市街地緑化の推進を図り、四季を感じるまちづくりを進めます。また、稲城市の特徴である水と緑のネットワークや身近に緑を感じられる場所としての公園の魅力をより一層高め、有効に活用するまちづくりを推進していきます。

地元住民や関係団体に支えられ、上谷戸川でホタルの幼虫を放流する子どもたち

3 活力あふれるまちづくりと魅力の発信

新たに稲城中央公園総合体育館に設置されたクライミングウォールで開催されるボルダリング教室

地域情報誌「グレーピア」の特集から生まれた、カレーで稲城を盛り上げる市民手づくりのイベント「いなぎカレーパーク」

活力あふれ賑わいのあるまちを目指し、活力に満ちたふれあいのある農業、来訪者が賑わいと活気を感じられ市民が豊かな生活を実現できる商工業、だれもが生涯を通じて健康で豊かに楽しめるスポーツ・レクリエーション活動、これらの全ての活性化を図るとともに、相互連携による総体的な魅力の向上を推進します。また、市民と行政の協働による活動や稲城市観光協会の活動と合わせて、活力と賑わいの創出を一体的に推進するとともに、市内外へまちの魅力を発信します。

まちづくりの基本目標 Ⅳ

安全でだれもが安心して
快適に暮らせるまち――稲城

都市基盤整備・消防・防犯

稲城市は、豊かな水や緑と調和した都市環境を備えるとともに、東京都心部や周辺都市との交通の利便性にも優れています。良好な環境と交通の利便性を併せ持つ優位性を活かし、安全で快適な住み良いまちを目指します。

そして、市民生活を脅かす災害や犯罪等に対しては、市民一人ひとりの意識の向上と地域での活動とを基礎に、関係団体とも一体となって、安全で安心して暮らし続けることのできるまちづくりを推進します。

上平尾土地区画整理事業のまちなみ

1 安心して暮らせるまちづくり

地域の特徴や豊かな水と緑の資源を活かし、計画的な土地利用と土地区画整理事業による市街地の一体的な整備を行い、駅周辺等の各拠点の活性化を図ります。また、既成市街地の再生に向けて取り組み、定住型で世代交代のできる持続可能なまちづくりを推進します。

2 便利で快適な生活環境の整備

市民生活の利便性を高めるために、道路の整備充実を図るとともに、公共交通機関の充実や自転車利用の充実等に取り組み、交通環境の向上を図ります。また、下水道の整備により衛生的な生活環境を形成するとともに、総合的な水害対策を推進し、だれもが安全で快適に暮らすことができる、住み良いまちづくりを推進します。

若葉台と平尾をつなぐ市道初の上平尾トンネル

3 安全で安心な暮らしを守る対策

くらしに役立つ消費生活情報を提供する「くらしフェスタ」

「自分達のまちは自分達で守る」という精神で活動する稲城市消防団

市民が安全で安心して生活できるよう、消防団をはじめ防災関係団体と連携した消防体制の充実に努めます。大規模災害に備え、自助と共助の考え方に立つ市民と公助の役割を果たす行政とが連携し、地域防災力の充実強化に努めます。また、市民や警察、関係団体等が一体となって防犯に関する情報の共有や防犯意識の高揚を図り、自主的な防犯活動を通じて地域の防犯力強化を推進します。さらに悪徳商法等に巻き込まれないよう、消費者意識の向上を図ります。

まちづくりの基本目標 V

みんなでつくる持続可能な市民のまち── 稲城

市民・行政

一人ひとりの市民が、互いの多様性や能力を認め合い、尊重し、心豊かで活力に満ちた生活を送れる地域社会を実現し、平和な社会を継承していきます。

様々な地域課題に対しては、シビックプライドを持つ市民や多様なコミュニティと行政の協働によって解決を図っていきます。

そして、全国的に労働力人口が減少し、人材や税収の減少といった困難の中にあっても、持続可能な自治体経営に取り組み、質の高い市民サービスを将来にわたり安定して提供できるまちづくりを推進します。

子どもたちがよみうりランドを楽しみながら、市民憲章について学ぶ「稲城市民憲章推進の日」

1 互いに尊重し合う意識の醸成

市民一人ひとりが互いを大切にし、多様性を認め合う意識を醸成することで、全ての人の人権が尊重される地域社会の実現を目指します。また、男女共同参画をはじめとした取組みを実施することで、一人ひとりの個性や能力が尊重され、あらゆる人が自分の意思で様々な分野に参画できる活力ある社会を推進します。さらに、稲城市平和都市宣言に基づき、平和を尊重する意識の高揚を図る等、稲城市民憲章の理念を土台とした総合的な取組みにより、平和で友愛に満ちた心豊かなまちづくりを推進します。

2 コミュニティの充実と交流の推進

地域の活性化や課題解決力の向上を図るため、自治会や市民活動団体等のコミュニティの形成や育成の支援を推進します。また、国内外の都市や多文化との交流及び協力を市民が主体となって推進し、市民の人生を豊かなものにするとともに、地域の活性化を図ります。

アメリカ合衆国フォスターシティ市とのオンライン形式で実施された姉妹都市提携の締結

市民の実行委員会により運営される市内最大のイベント「Ｉのまち いなぎ市民まつり」

3 市民が参加するまちづくり

市民ニーズに対応し、地域課題を解決するため、市民が必要としている行政情報を積極的に発信・公開します。また、市民ニーズの把握に努め、さらに双方向性を意識した情報の共有化を進めていきます。そして、様々な機会を捉え市民参加を進めるとともに、市民と行政が協力し、協働のまちづくりを推進します。

4 持続可能な自治体経営

少子高齢化による労働力人口の減少は、人材確保の困難さや税収の減少という自治体経営にとって大きな課題につながります。こうした社会環境下においても持続可能な自治体経営を進めていくため、さらなる行政の効率化と財政基盤の強化に努めます。また、職員の能力と組織の生産性を高め、AI 等の技術の利活用等により事務の効率化を図り、多様化する市民ニーズに応えていきます。

マイナンバーカードを利用して全国のコンビニで証明書を取得できるサービスの展開

稲城のみらいを創る子どもたち★

稲城市の未来を担う子どもたち。学校で地域で
様々な体験をして、心も体も大きく育っています！

ジュニアワーカーセミナー。
稲城市では、年齢や学校の異なる仲間との様々な
活動プログラムを通して、学校や地域で積極的に
活動できるリーダーを育成しています

地域を知る、地域のために活動する

地域でボランティアをしたり
地域の行事に参加したり
伝統文化を体験するなかで、
様々な人との交流を経験します。

地区の運動会での綱引き。子どもも大人も一緒になって力を合わせることで、世代を超えた地域のつながりが生まれます

「地域に大人が少ない平日昼間に災害が発生したら、頼りになるのは自分たち中学生」の自覚のもと、自主防災組織の人と防災訓練

自治会など地域の人の協力を得て行う地域美化活動。古紙回収で得た収益はユニセフを通じて世界の恵まれない子どもたちへ寄付します

お年寄りと一緒に切手整理のボランティアを行う子どもたち。夏休みを利用して、市内にある高齢者や障がい者の施設、保育園などでボランティアを体験しています

地域の人と一緒に多摩川河川敷のゴミ拾い。ともに汗を流しながら世代を超えた交流が生まれます

地域の神社の節分祭。人生最初の年男年女を迎えた子どもたちが、一年の無病息災と地域の平穏の願いを込めて豆をまきます

古くから行われてきた伝統行事「塞の神」。地域の人から「塞の神」のいわれを教わるとともに、行事に込められた地域の人の願いも受け止めます

地域に伝わるお囃子も、お祭りやお祝い事に欠かせない伝統文化。日頃から練習を重ね、ハレの日に堂々と舞い演じる子どもたちは、伝統の立派な継承者です

地域の神社のお祭りに子ども神輿で参加。大人と一緒になってお祭りを楽しむことで、子どもたちも地域社会の一員となっていきます

稲城のみらいを創る子どもたち★

セミの羽化の観察。
子どもたちの年齢と同じぐらいの時間を地中で過ごしたセミの幼虫が、殻を破って羽化する姿に感動し、生命の力強さを感じます

自然を体験する、仕事を体験する

豊かな自然に包まれて育つ
稲城の子どもたち。
自然の営みに触れ、
職業という人の営みにも触れ、
心の世界を広げていきます。

専門家に教わる自然観察。自分たちの身近には、いろいろな生きものがたくさんいることを学び、自然に関心を持っていきます

池の土砂を取り除く「浚せつ」を行う前に別の場所へ生きものを移す取組み。子どもたちは、楽しみながら地域の生きものを守る大切さを学びます

「ネイチャーゲーム」を体験する子どもたち。「見る」「聞く」「触る」「かぐ」など様々な感覚を使って、自然の面白さや美しさを発見します

稲城の名産品・梨の栽培を体験する授業。広々とした梨園になる実の一つひとつに保護のための袋をかける作業を通して、農家さんの思いや苦労を学びます

木を題材としたアメリカの環境教育プログラム「PLT(Project Learning Tree)」。子どもたちは、自然を守り、活用するための考え方を養います

多摩川、大丸用水など地域の水辺にすむ生き物調査。子どもたちは、身近なところに豊かな生態系が残されていることに驚きます

稲城はお米づくりも盛んでした。毎日当たり前のように食べることができるお米がどのように作られるのか、どんな苦労や工夫があるのか、一つひとつ体験します

コロナ禍での感染拡大防止のため、リモートでの職場体験。保育士さんから仕事の内容等を聴き、園の行事で使うアイテムを手作りします。園児の喜ぶ顔を想像しながら……

高齢者施設での職場体験。学校内では経験できない様々な人との出会い、様々な作業の体験を通して、多くの人の地道な努力で社会が成り立っていることを知ります

稲城のみらいを創る子どもたち★

市内に住む外国籍の人たちに御点前を披露する。
お茶とともに、日本の「おもてなしの心」も伝わりますように

展覧会や市民祭りを目指して先生や親と一緒に行うアトリエでの創作活動は、作品作りを通じて子どもたちの感性や情操を豊かにします

心を養う、体を鍛える、技を磨く

目標をたて、緊張し、夢中になり、やり遂げた達成感。
それは子どもたちを、より大きなチャレンジへと向かわせます。

スポーツに打ち込み、様々な壁や困難を乗り越える力をつけていく子どもたち。やがて、最も打ち勝たなければならない相手は、自分自身であることを知ります

小さな子どもたちは向上心を、大きな子どもたちはリーダーシップを身につけながら、一緒にダンス作品を作り上げていく中で、感性や自信が育まれます

みんなで一つのミュージカル作品を作り上げる達成感や成功した時の感動を経験して、真に打ち込めるものを見つけていく子どもたち

本番までの練習を通して、思い通りにできない悔しさや努力を続けたからこそ味わえる喜びを経験して、精神的に成長していく子どもたち

わがまち稲城

稲城マップ　稲城の文化財　稲城の太鼓判　姉妹都市と友好都市
数字で見る稲城のすがた　稲城インフォメーション　稲城市50年のあゆみ

50th Anniversary
INAGI CITY

稲城市制施行50周年記念
「私の好きなまち"いなぎ"フォトコンテスト」
優秀賞/切手賞
「上谷戸の鯉のぼり」
撮影 ゆみむさん

稲城マップ

稲城市は丘陵部と平野部が入り混じった地形に10地区から構成されています。
地区ごとにそれぞれ文化があり、特徴を紹介します。（一部の飛び地等は省略）

1

矢野口地区

17,441人
8,363世帯

「矢野口」の「ヤ」は谷間の湿地、「クチ」は入口を示し、南部の丘陵の間にある窪地などが地名の由来と言われており、梨とぶどうの栽培が盛んな地域です。市内最古の神社「穴澤天神社」があり、8月下旬の例大祭では「江戸の里神楽（国指定重要無形民俗文化財）」や「獅子舞」が奉納されています。「よみうりランド」があります。

2

東長沼地区

14,754人
6,811世帯

江戸時代から伝承される獅子舞が奉納される青渭神社があり、昔、その周辺に青く澄んだ形の長い沼があったことなどが地名の由来と言われています。梨とぶどうの栽培が盛んで、4月上旬には市役所周辺で「三沢川 桜・梨の花まつり」が行われ、三沢川沿いの桜がライトアップされるため夜桜を楽しめます。観光情報を発信する「いなぎ発信基地ペアテラス」があります。

3

大丸地区

9,593人
4,843世帯

昔、古多摩川の船運の港があり、川沿いにあった大きく丸い低地の船着き場などが地名の由来と言われています。約300年以上の歴史をもつ農業用水路「大丸用水」の起点となっており、支流を合わせると総延長は約70kmに及びます。一部で散策路が整備され、一年を通して街中に水路のある景観を楽しむことができます。

4

百村地区

5,392人
2,454世帯

地域の形が、「裳(も)」と呼ばれるヒダのある長いスカートに似ていることなどが地名の由来と言われています。全国でも珍しい神仏混交の寺院「妙見寺・妙見尊」があり、8月7日には厄除け祈願の「蛇より行事」が行われています。茅(カヤ)をねじり合わせてつくられる大蛇は全長100～150メートルにもなります。南部には自然豊かな里山があります。

5

坂浜地区

3,470人
1,550世帯

自然豊かな多摩丘陵に位置し、傾斜地や三沢川の川岸にあることなどが地名の由来と言われています。地域住民が管理する上谷戸親水公園では、昔ながらの坂浜の景観が保全・復元され、様々な行事を体験することができます。端午の節句には一面中に鯉のぼりが掲げられ、5月下旬から6月上旬にかけてはホタルも鑑賞することができます。

6

平尾地区

12,128人
5,993世帯

「平尾」の「ヒラ」は傾斜地や平らな土地、「オ」は峰を示し、多摩丘陵の緩やかな傾斜の峰であることなどが由来と言われています。廃校になった小学校を複合施設「ふれんど平尾」として活用し、様々な市民活動の拠点となっています。11月上旬には、隣接する第三文化センターも会場となる「平尾まつり」が開催されます。

7

押立地区

4,862人
2,151世帯

多摩川の堤防工事で大勢の人夫を押立てたことなどが地名の由来と言われています。江戸時代を通じた多摩川の度重なる氾濫で、川の流路が変わったことで南北に分断され、現在の稲城市押立と府中市押立の形になりました。多摩川沿いには約１kmに渡るアカシア林が続いており、5月上旬には甘い香りがする白い花を咲かせます。

8

向陽台地区

8,888人
3,658世帯

多摩丘陵の南東斜面で太陽がさんさんと降りそそぐイメージから「向陽台」の地名になりました。1988年に稲城で最初の多摩ニュータウンとしてまち開きを迎え、多摩丘陵の斜面とまちが織りなす景観が評価され、平成7年度「都市景観大賞」を受賞しています。武蔵野の自然を活かした城山公園では、5月上旬に市民による「稲城手づくり市民まつり」が開催されます。

9

長峰地区

4,559人
1,834世帯

長い峰の地形で、昔から地域にあった地名であることなどから「長峰」の地名になりました。豊かな自然を享受できる「ライフリゾート」のまちを目指し、1995年に稲城で２番目の多摩ニュータウンとしてまち開きを迎えました。住宅街に隣接して総合体育館と稲城中央公園があり、10月下旬に市内最大のイベント「Iのまちいなぎ市民まつり」が開催されます。

10

若葉台地区

11,804人
4,186世帯

緑の豊かな多摩丘陵にある新しいまちのイメージから「若葉台」の地名になりました。1999年に稲城で最後の多摩ニュータウンとしてまち開きを迎え、都市文化性を追求したまちには、学校を中心に住宅、駅、商業施設、公園を環状につなぐ歩行者空間があります。若葉台公園では、8月下旬に夏祭りが開催され、花火も打ち上げられます。

※人口および世帯数は、2021年10月1日時点

いにしえの稲城を伝える

文化財

私たちの郷土稲城に人が住み始めたのは、今から約2万年も前のことです。旧石器時代と呼ばれる時代で、当時の人々が使っていた石器が、坂浜や平尾の丘陵上から発見されました。それから時が過ぎ、縄文時代、弥生時代、古墳時代と続き、そして現在に至るまで、人々の長い歴史が営まれました。

国…国指定重要無形民俗文化財
都…東京都指定文化財
市…稲城市指定文化財

木造阿弥陀如来 及び両脇侍像

（常楽寺 阿弥陀堂安置）（東長沼）都

高勝寺の観世音菩薩立像とともに市内で最も古い仏像のひとつで、中尊の阿弥陀如来坐像は像高78cm、両脇侍像はともに像高92cmです。三体ともヒノキの寄木造で、若干整形の美を欠くところも見られますが、形態のとり方、体部、衣文などが良く整い、技巧的に優れた仏像といえます。

江戸の里神楽（矢野口）国

山本権律師弘信（やまもとごんりつしひろのぶ）が室町時代初期の応安6年(1373年)に創始したといわれています。面をつけた黙劇で、古事記や日本書紀などの神話の世界を題材としています。

平尾台原遺跡出土品（平尾）市

平尾住宅北側の一段低い台地に平尾台原遺跡があります。縄文時代から弥生時代、古墳時代、奈良時代にかけて、大変長期にわたって営まれた複合遺跡です。特に、弥生時代の遺跡は稲城市で初めて発見されています。その出土品のうち、重要なものについては稲城市指定文化財に指定されています。

孝子長五郎の墓（押立）都

（こうしちょうごろう）

押立に残っている長五郎の墓です。長五郎は、江戸時代中期に押立に生まれた農民で、母親への長年の孝行により幕府から褒賞されました。

多摩川中流域の船大工用具（東長沼）都

多摩川で最後の船大工であった久保井富蔵氏の、川船を造るための道具です。資料の内容は、ノコギリやノミ、カンナなどの道具と、水漏れ防止に板の隙間に埋めたマキハダなどの附属資料と川船模型などです。現在はもう川船造りを伝承する船大工は残っていません。

屋形船

馬の線刻画

出土した瓦と磚（せん）

瓦谷戸窯跡（大丸）都

奈良時代に武蔵国分寺と武蔵国府関連の瓦と方形塼を生産した窯の跡です。窯跡内からは、祭祀に使われたと考えられる三頭の馬の線刻画が描かれていました。

高勝寺のカヤ（坂浜）都

高さ約25m、胸高周囲約6.3mのカヤの雌株で、都内では2番目、全国でも12番目の大きさといわれています。東京都指定天然記念物です。

妙見尊の蛇より行事（百村）都

毎年8月7日に行われる行事で、青萱を刈り取って長さ100m～150mの大蛇の形に撚りあげて、厄除けの祈願をします。

稲城市商工会地域認証ブランド

稲城の太鼓判

稲城らしさを表現した商品を地域ブランド「稲城の太鼓判」として認証し、市内外に発信することで地域の活性化を推進していきます。

令和2年 認証

パスタドレッシング

稲城の旬の野菜を使用したパスタにかけても美味しい万能ドレッシングです。
ORTOLANA オルトラーナ

いなぎのクローバーはちみつシリーズ

稲城産の「純粋クローバーはちみつ」を使い、人気の定番商品に仕上げました。
パティスリー シュエト

令和2年 認証

令和2年 認証

野菜のプリン

稲城市内の野菜（じゃがいも・人参・カボチャ・ホウレン草など）をピューレにしてプリン生地に入れて蒸し焼きにしました。
走る！洋食屋さん♪ いなぎ satoyamaキッチン

令和2年 認証

梨最中

梨あんを使用した、梨の花をかたどった最中です。
菓匠 髙おか

令和2年 認証

もむらいす（生ハム）

お店がある「百村」を冠した名称を使用した「カフェ飯」シリーズ。地元の新鮮野菜を使用したヘルシーかつボリューミーなミニ丼です。
Café ROSSARD

令和2年 認証

多摩のヴィーナス

若葉台地区で発掘された「多摩ニュータウンのヴィーナス」と名付けられた土偶をモチーフとしたキーホルダーと箸置きと置き物です。
濱陶器

令和2年 認証

なしのすけお買物バックセット

「なしのすけ」と「ORCA TOOL BAG」をコラボしたお買い物バック。丈夫な生地を使用しており、IDケースをセットしています。
株式会社ボナカジャパン

生チョコマカロン

洋菓子工房 パン エ ヴィーノ

稲城の輪

洋菓子工房 パン エ ヴィーノ

夏みかんのチョコパウンド

お菓子の工房 だいちとくるみ

お芋きんつば

菓匠 高おか

梨ワインカステラ

菓匠 高おか

みどりのカレーパン

走る! 洋食屋さん♪ いなぎ satoyamaキッチン

てづくりアイス＆シャーベット

ORTOLANA オルトラーナ

モム＊ラテ

Café ROSSARD

若葉台のまごころスイートポテト

パティスリー シュエト

稲城焼®

濱陶器

稲城野菜のピクルス
(PICKLES PUNCH®)

ORTOLANA オルトラーナ

稲城の梨茶と中国茶

株式会社ボナカジャパン

なしのすけどらやき高尾ぶどう餡

御菓子司 三好

梨そば

手打ち蕎麦 あかりや弧仙

いなぎぶどうゼリー

菓匠 高おか

稲城で生まれた高尾ぶどうけーき

ケーキファクトリー ホイップ

稲城のバジルクラッカー

お菓子の工房 だいちとくるみ

稲城の梨ワインケーキ

パティスリー シュエト

石挽き ピスタチオ

洋菓子工房 パン エ ヴィーノ

稲城で生まれた梨ジュース

ケーキファクトリー ホイップ

稲城窯干しぶどう

ケーキファクトリー ホイップ

オルトラーナのナポリタン

ORTOLANA オルトラーナ

稲城の華

菓匠 高おか

稲城の梨ワイン

稲城酒販組合

いなぎポテト

菓匠 高おか

稲城の梨パウンドケーキ

お菓子の工房 だいちとくるみ

梨スコーン

ケーキファクトリー ホイップ

稲城の里

そば・日本料理 福寿庵

稲城散策

ケーキファクトリー ホイップ

高尾ぶどうシャーベット

手づくりアイスクリーム エル・シエロ

ダクワーズ稲城

パティスリー ハルキ

稲城めぐり(梨)

お菓子の工房 だいちとくるみ

稲城の梨シャーベット

手づくりアイスクリーム エル・シエロ

まめたまとうふ

とうふ処　利兵衛庵

干し梨

ケーキファクトリー ホイップ

いなぎ梨の実

菓匠 高おか

梨ゼリー

菓匠 高おか

なしのすけどらやき(梨餡)

御菓子司 三好

梨けーき

ケーキファクトリー ホイップ

稲城ダマンド

パティスリー ハルキ

ブルーベリー餅

御菓子司 三好

稲城の梨のコンポート
バニラアイス添え

carina bambino

姉妹都市と友好都市

sister city and friendship city

稲城市は4つの市町村と姉妹都市・友好都市の関係を結び、
教育・産業・スポーツなど多岐にわたる分野で交流を深めています。
稲城市の姉妹都市・友好都市を紹介します。

姉妹都市

大空町

sister city Town of Ozora

大空と大地の中で ふれあいと語らいで創る感動のまち

大空町は、北海道北東部のオホーツク管内に位置し、2006 年 3 月 31 日に女満別町と東藻琴村が合併して誕生しました。人口は 6,869 人（2021 年 9 月末時点）で、面積は稲城市の約 20 倍の 343.66km² あります。オホーツクの空の玄関口である女満別空港を擁し、網走湖、藻琴山、メルヘンの丘、ひがしもこと芝桜公園など四季の自然が豊かな町です。

主幹産業は農業で、麦類、じゃがいも、甜菜（グラニュー糖の原料）、野菜、豆類に加えて、日本最東端の土地で収穫される米など、多様な作物が栽培されています。

大空町との交流

旧女満別町出身で元都立高校長の紹介により1988年に行われた子どもたちの作品交流がきっかけとなり、教育分野を中心に進められました。1991年（当時は女満別町）に姉妹都市提携が結ばれ、その後、女満別町と東藻琴村の合併を経て、2006年7月に改めて姉妹都市として調印を行いました。

近年では、小学生が相互にホームステイをしたり相互の農産物を学校給食の食材に提供する教育分野はもちろん、文化、スポーツ、産業・経済など幅広い分野での交流が行われています。

女満別地区の国道39号線沿いにあるフォトスポット「メルヘンの丘」

網走湖女満別湖畔

ひがしもこと芝桜公園

姉妹都市

フォスターシティ市

sister city City of Foster City

豊かな水辺が織りなす 美しいウォーターフロントの都市

アメリカ合衆国カリフォルニア州フォスターシティ市は、サンフランシスコ空港から約10km圏内に位置し、稲城市の市制施行と同じ1971年に誕生しました。人口は約3万4千人、面積は51.4km²です。

サンフランシスコ湾の海水を取り込み、水位を制御できるラグーン（運河）がある美しいウォーターフロントの都市で、サンフランシスコのベッドタウンとして再開発が進みました。繁華街やダウンタウン等がなく、全米でベスト8に選ばれるほど安全な街であり、さらに住民の45％がアジア人という人種構成から日本に対するイメージも良好で、子どもから大人まで安心して交流を行うことができる街です。

フォスターシティ市との交流

フォスターシティ市は、市制施行が稲城市と同じ年で、ベッドタウンであり、水を活かした街づくりを行い、教育や青少年のスポーツに力を入れているなど、稲城市と数多くの共通点があることから、姉妹都市提携に向けた検討や交流が進み、2021年7月にオンライン形式で姉妹都市提携を締結しました。

今後は、教育・スポーツ・文化・観光等、各分野における交流事業の企画・実施等を通じて相互の市民が幅広い視野や国際感覚を育み、これらの経験を通して人生を豊かなものとできるよう市民間の交流を進めていきます。

ウォーターフロントの再開発都市

水辺を活かしたまちづくり

各種のスポーツも盛んです

晴れた日には日本海と佐渡島まで見える「毛無山」

道祖神祭
（国の重要無形民俗文化財）

野沢温泉の風物詩「お菜洗い」

友好都市
野沢温泉村
friendship city Nozawaonsen Village

四季の自然に彩られた ぬくもりの湯の郷

野沢温泉村は、長野県の北部に位置し、南側は木島平村、西側は飯山市、北側及び東側は栄村と接しており、古くから温泉地として栄えてきたほか、スキー場としても有名です。人口は3,430人（2021年10月1日現在）、面積は57.96km²です。

村内に30余りの源泉があり、その良質の天然温泉は、野沢温泉村を訪れる多くのお客様に喜ばれています。また、「外湯」と呼ばれる無料の共同浴場が温泉街に13か所あり、その周辺の住民が「湯仲間」という制度をつくり、維持管理をしています。

野沢温泉村との交流

野沢温泉村とは、2005年に「あつまれ稲城っ子！ 野沢温泉塾」開講の調印を行い、市立小中学校の夏季及び冬季の体験学習を受け入れ、10年間にわたり教育分野での交流を続けてきました。

その後2008年に災害時等相互応援協定を締結し、交流が深まるなか、住民の間に芽生えた友情を大切にし相互理解や信頼関係を深めるため、2015年11月17日に友好都市協定が結ばれました。

万葉集にもうたわれた景勝地「松川浦県立自然公園」

生育の良い甘い苺も名産です

国指定の重要無形文化財「相馬野馬追」

友好都市
相馬市
friendship city Soma City

未来に向かって伸びゆく 福祉と文化の都市

相馬市は、福島県の東北端に位置し、市街地から西に57kmで福島市、南に300kmで東京、北に53kmで仙台に至る、県北沿岸交通、文化の中心地となります。人口は33,944人（2021年9月末時点）、面積は197.79km²です。

太平洋に面しており、新鮮な海の幸やそれを使用した海鮮加工品が豊富です。また、それ以外にも農林水産大臣賞を受賞した醤油や国際コンクールで金賞を受賞した米、A5ランクの黒毛和牛“相馬牛”など、多くの美味が揃っています。

相馬市との交流

2011年3月11日の東日本大震災発生後、相馬市への救護支援をきっかけに、同年6月には災害時等相互応援協定を締結するなど、継続して交流を続けてきました。

その後、災害時にとどまらず、平時から市民同士が交流し、お互いの地域の発展を図ることを目的とし、2015年8月18日に友好都市協定が結ばれました。

数字でみる稲城のすがた

現在の稲城市のすがたを、市制施行時の50年前と比べてみました。人口が増え市民の活動が活発になる一方で、事件や事故、火災が少ない安全・安心なまちのすがたが浮かんできます。

面積 …… **17.97㎢**

東西方向約5.3km　南北方向約5.3km

位置(市役所):東経139度30分16秒、北緯35度38分17秒

人口 …… **92,891人**　市制施行時の2.5倍に!

市制施行時(1971年)は36,800人

世帯数 …… **41,843世帯**　市制施行時の3.5倍に!

市制施行時(1971年)は11,999世帯

人口密度 …… **5,169人/㎢**

市制施行時(1971年)は2,090人/km²

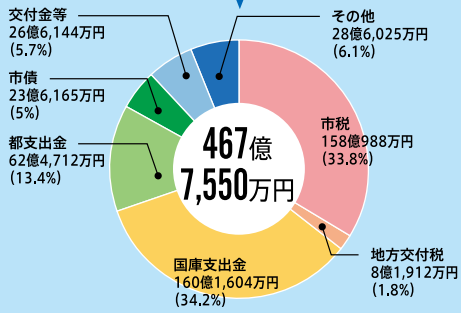
公園・緑地面積 …… **1,025,411㎡**

1人当り公園面積=11m²

※2021年10月1日現在

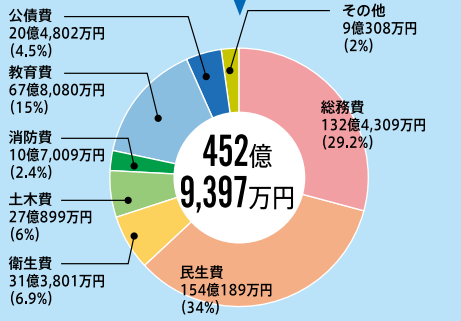
・令和2年度決算(一般会計)歳入

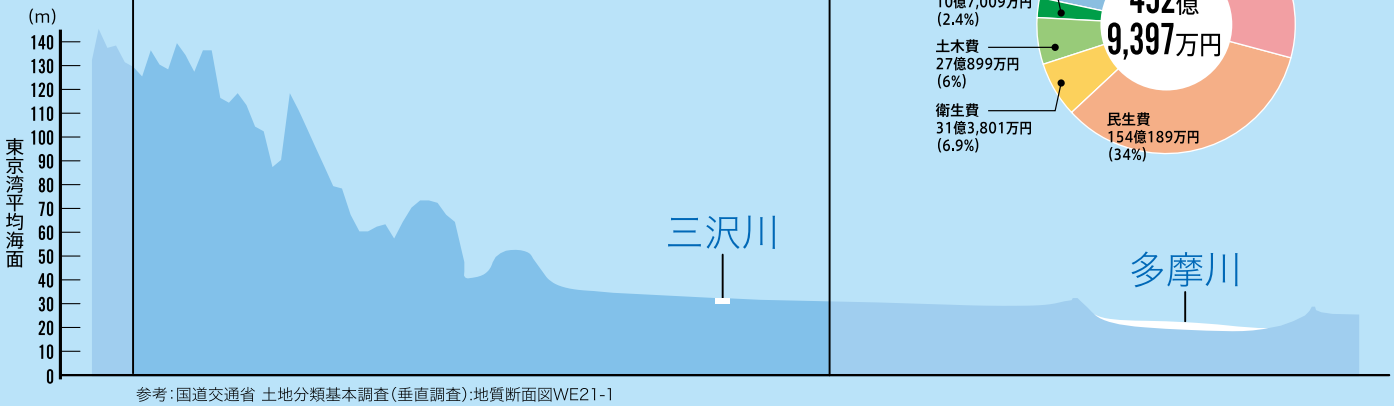
昭和46年度決算 18億7,214万円から **約25倍!**



・令和2年度決算(一般会計)歳出

昭和46年度決算 18億1,784万円から **約25倍!**





参考:国道交通省 土地分類基本調査(垂直調査):地質断面図WE21-1

交通アクセス

・車の場合

西新宿JCT　東京方面　約20分　稲城IC

大月JCT　山梨方面　約45分　府中スマートIC

※渋滞がない場合の目安

・電車の場合

京王線　新宿　約25分　稲城　約17分　橋本

南武線　川崎　約30分　稲城長沼　約12分　立川

※快速・特急などを利用した場合の目安

転入者数	転出者数	出生数	死亡数	婚姻件数
5,028人/年	4,186人/年	668人/年	631人/年	631件/年
1日あたり13.8人	1日あたり11.5人	1日あたり1.8人	1日あたり1.7人	1日あたり1.7件
〔1971年 18.4人/日〕	〔1971年 8.6人/日〕	〔1971年 2.6人/日〕	〔1971年 0.3人/日〕	〔1971年 1.2件/日〕

離婚件数	救急出動件数	火災発生件数	刑法犯発生件数	交通事故件数
161件/年	3,471件/年	14件/年	304件/年	178件/年
1日あたり0.4件	1日あたり9.5件	1日あたり0.04件	1日あたり0.8件	1日あたり0.5件
〔1971年 0.04件/日〕	〔1971年 1.7件/日〕	〔1971年 0.1件/日〕	〔1971年 1.2件/日〕	〔1971年 0.3件/日〕
		2020年度の焼損面積は建物、林野とも0m²！	2018年度に年間目標500件以下を達成！その後も443件、339件、304件と減少中！	死亡事故は2年連続で0件！

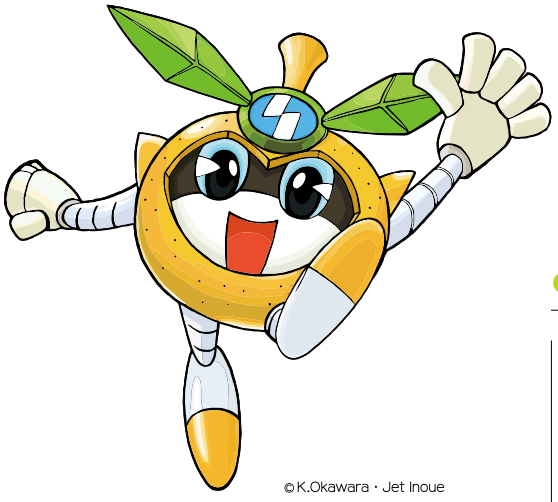
乗車人数 2019年度

2,496,207人（3.3倍！）	3,893,617人（13.4倍！）	4,862,302人（44.6倍！）
1日あたり6,875人	1日あたり10,753人	1日あたり13,426人
〔1971年度 764,000人/年〕	〔1975年度 291,000人/年〕	〔1975年度 109,000人/年〕
京王よみうりランド	稲　城	若葉台

乗車人数 2019年度

3,713,802人（1.7倍！）	3,016,572人（1.7倍！）	2,493,924人（1.6倍！）
1日あたり10,147人	1日あたり8,242人	1日あたり6,814人
〔1971年度 2,213,000人/年〕	〔1971年度 1,806,000人/年〕	〔1971年度 1,548,000人/年〕
矢野口	稲城長沼	南多摩

稲城インフォメーション



市制施行40周年を記念して、メカニックデザイナーの大河原邦男氏とマルチクリエイターの井上ジェット氏により、稲城市イメージキャラクターが作成されました。

平成23年10月13日 誕生

稲城市制施行50周年記念ロゴマーク（占部 博士さん 作）

INAGI CITY 50th Anniversary

市制施行50周年を記念したロゴマーク
50の「0」の中に、市の形と特産品の梨を配置し、「緑につつまれ　友愛に満ちた市民のまち」にふさわしく、全体を緑でまとめ、笑顔を盛り込んでいます。

令和2年12月8日 決定

市章

いなぎの「い」を図案化したもので、円満な市政と、将来に向かって限りない発展を象徴しています。
昭和42年10月14日 制定

ロゴタイプ

稲城市
INAGI CITY

市制施行45周年記念事業の一環で、漢字表記「稲城市」と英語表記「INAGI CITY」のロゴタイプ（文字デザイン）を制定しました。
平成29年11月1日 制定

CIシンボルマーク・ロゴ

Yes!いなぎ

稲城市のCI活動推進のシンボルマーク。稲城の「i」を形象化し、楕円は梨に代表される豊かな実りを、曲線は稲城の自然を、全体で未来に向かって発展する力を表現しています。
平成8年7月19日 制定

市の木　イチョウ
昭和48年11月1日 制定

市の花　梨
昭和48年11月1日 制定

市の鳥　チョウゲンボウ
平成28年11月1日 制定

稲城市民憲章

（昭和56年11月1日 制定）

縄文の昔から、緑豊かな多摩の横山と多摩川の清流に
はぐくまれた私たちのまち稲城。
私たちは、このまちに住み、このまちを愛し、
いつまでも平和で友愛に満ちた心のふるさと、
稲城市をつくるために、市民憲章を定めました。
市民ひとりひとりがこの憲章を心の道しるべとして、
より豊かなまちとなるよう協力しましょう。

一、太陽と緑をたいせつにし、
　土の香りのあるまちをつくりましょう。

一、市民としての自覚をもち、
　助け合って住みよいまちをつくりましょう。

一、年よりやこどもをいたわり、
　若い力を育てるまちをつくりましょう。

一、心身ともに健やかに、
　笑顔で働けるまちをつくりましょう。

一、伝統を尊び、文化を高め、
　未来に展望がもてるまちをつくりましょう。

稲 城 市 歌

作詞：朝倉 修
作曲：髙橋有紀

めぐる季節の　陽光を浴びて
眺めてみよう　このまちを
多摩の流れは　さわやかに
やさしく香る　ナシの花
自然がいっぱい　みんなの稲城
大空見上げながら　手をつなぎ歩こう

そよ吹く風に　耳を澄ませて
感じてみよう　このまちを
イチョウの木々は　緑映え
翼広げる　チョウゲンボウ
しあわせいっぱい　みんなの稲城
夢を探しながら　手をつなぎ歩こう

ふれあう人の　声に誘われ
見つめてみよう　このまちを
絵巻と開く　里神楽
未来へ伸びる　街並みよ
ときめきいっぱい　みんなの稲城
絆を深めながら　手をつなぎ歩こう

©K.Okawara・Jet Inoue

稲城市歌

「緑につつまれ　友愛に満ちた市民のまち」に沿って、稲城市のまちの姿をイメージできる歌詞で、子どもから大人まで自然に口ずさめ、親しみやすく、後世まで歌い継がれる曲として制定しました。
令和3年11月１日 制定

稲城市50年のあゆみ

1971 昭和46
- 京王相模原線が京王よみうりランド駅まで開通
- 多摩ニュータウン稲城地区の事業が承認
- **11月1日『市制施行』（人口 36,800人、11,999世帯）**
- 平尾～市役所間バス路線開通
- 第1回産業まつり開催

1972 47
- 第二保育園開園（東長沼）、児童館開館
- 少年キャンプ村始まる（矢野口）
- 稲城第二中学校開校（坂浜）

1973 48
- 多摩川児童交通公園完成
- 東京都三市収益事業組合設立、江戸川競艇を開催
- 第1回 稲城市スポーツ大会開催
- 中央文化センター（公民館、図書館）開館（東長沼）
- 市の木「イチョウ」、市の花「梨」を制定

1974 49
- 稲城消防署新庁舎完成
- 広報無線放送開始
- 稲城市上水道事業が東京都に統合
- 市営プール開設（大丸）
- 梨「稲城」の栽培が始まる
- 京王相模原線が多摩センターまで開通（稲城駅、若葉台駅開設）

1975 50
- 稲城市長期総合計画・基本構想策定
- 稲城第六小学校開校（大丸）
- 第二文化センター（公民館、児童館、老人福祉館、図書館）開館（矢野口）
- 北緑地公園開設
- 第1回 稲城市芸術祭開催
- 第三保育園開園（坂浜）
- 京王よみうりランド駅前土地区画整理組合設立認可
- 平尾土地区画整理組合、稲城第一土地区画整理組合設立認可

1976 51
- 第1回 市民体力づくりマラソン大会開催
- 稲城市新生活運動推進協議会結成
- 稲城第七小学校開校（矢野口）
- 稲城第八小学校開校（平尾）
- 第1回 市民水泳大会開催
- 雨水ポンプ場完成
- 第四保育園開園（大丸）
- 第五保育園開園（平尾）
- 長期総合計画・前期基本計画策定

1977 52
- 都立稲城高校開校（坂浜）
- 稲城第三中学校開校（矢野口）

1978 昭和53
- 多摩川衛生組合に不燃・粗大ごみ破砕機導入
- 稲城中央土地区画整理事業の事業認可
- 高尾ぶどうの栽培が軌道にのる

1979 54
- 第三文化センター（公民館、児童館、図書館）開館（平尾）

1980 55
- 第1回 多摩川清掃デー開催
- 稲城市高齢者事業団が発足（現：シルバー人材センター）

1981 56
- 市立病院にCTスキャナー導入
- 消防署に化学消防車導入
- 市役所新庁舎完成（百村7番地から現在地に移転）
- **市制施行10周年を迎える（人口 47,856人、14,981世帯）**
- 市制施行10周年を記念し市民憲章を制定、自治功労・一般表彰始まる
- 公共下水道汚水管埋設工事開始
- 稲城市土地利用基本計画策定
- 京王よみうりランド駅前土地区画整理事業完了

1982 57
- 矢野口コミュニティ防災センター完成
- 市制10周年記念公園（吉方公園）完成
- 都立稲城保健相談所開所
- 福祉センター開館（障害者の通所訓練事業開始）
- 平尾土地区画整理事業完了

1983 58
- 教育相談所開設
- 南山スポーツ広場利用開始
- 第四文化センター（公民館、児童館、図書館）開館（東長沼）
- 多摩ニュータウン稲城地区の造成工事に着手

1984 59
- 市立病院医事課窓口にコンピュータ設置
- 三沢川分水路完成（三沢川坂浜取入口～多摩川）
- 稲城市民憲章推進協議会発足
- チュニジア共和国大使から絵画の寄贈、この後、学校間の文化交流が始まる
- 長期総合計画・後期基本計画策定

1985 60
- 稲城第四中学校開校（押立）
- 市の人口が5万人を超える（5月15日）
- 中国北京市区県友好代表団が市を訪問
- 下水道の供用開始
- 坂浜コミュニティ防災センター完成

1971～1997

1986 昭和61
- 特別養護老人ホーム「正吉苑」開設（平尾）
- 住民登録事務の電算化、住民情報システム稼働
- 坂浜西地区土地区画整理事業（59ha）が東京都第二次長期計画に位置付けされる
- 既成市街地整備基本計画策定

1987 62
- 大丸親水公園完成
- 第六保育園開園（大丸）

1988 63
- 多摩ニュータウン向陽台地区入居開始
- 向陽台小学校・稲城第五中学校開校（向陽台）
- 防災行政無線の運用開始

1989 昭和64 平成元
- 稲城村生誕百年（4月1日）
- 学校法人駒澤学園が稲城市に移転
- 市立図書館にコンピュータ導入
- 榎戸土地区画整理事業の事業認可

1990 2
- 女性行動計画策定
- 「ガーデンシティ多摩」を向陽台で開催
- 町界町名地番整理事業を施行（平尾地区）
- 第二次長期総合計画・基本構想策定
- 情報公開制度開始
- 坂浜西地区土地区画整理事業（215ha）が東京都第三次長期計画に位置付けされる
- 消防署に梯子付消防ポンプ車導入
- （仮称）第二多摩川原橋（現：稲城大橋）整備事業が都市計画決定
- 東京南農業協同組合発足
- 老人保健施設「ヒルトッププロマン」が稲城台病院に開設

1991 3
- 平和都市宣言議決
- 第二次長期総合計画・基本計画策定
- 稲城中央公園開設
- 野球場開設（稲城中央公園内）
- 総合グラウンド開設（稲城中央公園内）
- **市制施行20周年を迎える（人口 59,154人、21,304世帯）**
- 北海道女満別町と姉妹都市提携
- 稲城第一土地区画整理事業完了
- 大丸北土地区画整理組合設立認可

1992 4
- 城山小学校開校（向陽台）
- 上谷戸大橋完成
- 稲城駅、若葉台駅に快速電車停車
- いなぎグリーンウェルネス財団設立
- 総合体育館開館（稲城中央公園内）
- 城山文化センター（公民館、児童館）開館（向陽台）
- 堅台土地区画整理組合設立認可

1993 平成5
- 矢野口駅周辺土地区画整理事業の事業認可
- 南多摩駅周辺土地区画整理事業の事業認可
- 稲城長沼駅周辺土地区画整理事業の事業認可
- 第二次稲城市土地利用基本計画策定
- 多摩川衛生組合から多摩市が脱退し、新たに府中市が加入し新体制となる
- 消防署に救急救命士が同乗する高規格救急車が配備
- JR南武線連続立体交差事業が認可
- 稲城中央土地区画整理事業完了
- 堂ケ谷戸土地区画整理事業の事業認可

1994 6
- 稲城市人材バンク事業開始
- 百村土地区画整理事業の事業認可
- 百村コミュニティ防災センター開設
- 在宅介護支援センター事業開始
- 矢野口松葉地区に東京都の稲城ポンプ場完成
- ごみ減量化推進全国大会で国からクリーンリサイクルタウンに選定される
- リサイクルショップ開設

1995 7
- 多摩ニュータウン長峰地区入居開始
- 特別養護老人ホーム「いなぎ苑」開設（百村）
- 長峰小学校開校（長峰）
- 稲城大橋有料道路開通
- 中国四川省稲城県訪日団が訪問
- 向陽台地区が都市景観大賞建設大臣賞を受賞し「都市景観100選」に選ばれる
- 大丸南土地区画整理組合設立認可

1996 8
- 消費者ルーム開設（百村：首都圏コープ事業連合稲城事務センター内）
- 行政改革大綱を決定
- 第二次長期総合計画・修正基本計画策定
- 大丸北土地区画整理事業完了
- 男女平等推進いなぎプラン（新女性行動計画）、Inagiあいプラン（稲城市生涯学習推進計画）策定

1997 9
- 東京都稲城保健相談所の業務の一部を市へ移管し、保健センターとして開設
- JR南武線連続立体交差事業に着手
- 特別養護老人ホーム「ひらお苑」開設（平尾）
- 稲城中央公園「くじら橋」開通
- 堂ケ谷戸土地区画整理事業完了

稲城市50年のあゆみ

1998 平成10
- 稲城第三（現：若葉台）公園多目的広場開設
- 多摩川衛生組合新工場完成（150t 炉3基で稼働）
- 市立病院新病棟開業・業務開始
- 平尾南土地区画整理組合設立認可
- 稲城市消防団50周年、稲城市消防本部開設30周年記念

1999 11
- 多摩ニュータウン若葉台地区入居開始
- 稲城市役所若葉台出張所開設
- 堅台土地区画整理事業完了
- 若葉台小学校・稲城第六中学校開校（若葉台）
- 第二給食調理場開設

2000 12
- 「まちをきれいにする市民条例」制定
- 玉川大学と教育活動の全面提携を結ぶ
- 稲城市公式ホームページ開設
- 第三次長期総合計画・基本構想策定

2001 13
- **市制施行30周年を迎える（人口 70,033人、28,186世帯）**
- ヴェルディ川崎東京移転、稲城を本拠地に
- 第三次長期総合計画・基本計画策定
- 第二次行政改革大綱・実施計画を決定
- 子ども家庭支援センター開設（向陽台）
- クリーンセンター多摩川と市立病院間の余熱利用温水システム竣工

2002 14
- 稲城市循環バス「iバス」本運行開始
- 第1回 Iのまちいなぎ市民祭開催
- 旧稲城第五小学校と旧稲城第八小学校の統合により平尾小学校開校（平尾）

2003 15
- 「はつらつワーク稲城」を開設し、55歳以上の就業希望者の職業紹介事業を開始
- 「いなぎICカレッジ」開講
- 平尾南土地区画整理事業完了

2004 16
- 市立病院アドボカシー相談室開設
- ふれんど平尾開設（旧：稲城第八小学校）
- 家庭ゴミ有料化

2005 17
- 地域振興プラザ開館（東長沼）
- JR南武線 連続立体交差事業 第一期工事完了
- 東京都立若葉総合高等学校開校（坂浜）

2006 平成18
- 中央図書館・城山体験学習館開館（向陽台）
- 上谷戸緑地体験学習館開館（若葉台）
- 市立学校アドボカシー相談室開設
- 北海道大空町（女満別町と東藻琴村の合併により誕生）と姉妹都市提携
- 大丸南土地区画整理事業完了
- 南山東部土地区画整理組合設立認可
- 第三次行政改革大綱・実施計画を決定
- 「稲城の梨」が特許庁から地域ブランドに認定される
- 多摩川原橋が4車線に拡幅

2007 19
- 「地方自治法施行60周年記念総務大臣表彰」受賞
- 稲城市が国に提案した介護支援ボランティア制度が実現
- 上谷戸親水公園が国土交通省の「手づくり郷土（ふるさと）賞」を受賞
- 南多摩尾根幹線開通
- 消防団災害支援団員制度が発足

2008 20
- 京王線沿線7市の図書館相互利用開始
- 市民参加型の「農業体験農園」が市内2園で始まる
- お酒「みのり」、「梨ワイン」に続き稲城の地場産「梅ワイン」が販売開始し、三兄弟が出そろう

2009 21
- 複合施設「iプラザ開館」（若葉台）
- 市税等のコンビニエンスストア納付開始
- 市内初の認定こども園開園
- 「よみうりV通り」完成

2010 22
- 介護支援ボランティア制度の実践活動により「日本ヘルスサポート学会賞」を受賞
- 事業仕分けを実施
- 稲城大橋無料化
- 上平尾土地区画整理組合設立認可
- 第四次長期総合計画・基本構想策定

2011 23
- **市制施行40周年を迎える（人口 85,229人、36,048世帯）**
- 第四次長期総合計画・基本計画策定
- 市制施行40周年を記念して稲城市イメージキャラクター「稲城なしのすけ」誕生
- 東日本大震災発災直後からの福島県相馬市への救助活動等が評価され、稲城市消防本部が「総務大臣表彰」を受賞
- 中島ゆうし保育園開園（初の公立保育園民営化）
- 多摩都市計画道路3・3・7号線交通開放（是政橋から川崎街道を結ぶ新設道路）

1998～2021

2012 平成24
- 健康プラザ開業（大丸）
- 市立病院健診センター開設（大丸）
- 名誉市民制度創設
- 市民栄誉賞制度創設
- 稲城・府中墓苑組合設立
- 小田良土地区画整理組合設立認可

2013 25
- JR南武線上り線川崎方面の高架化完了し「踏切の無いまち稲城」が誕生
- 発達支援センター「レスポーいなぎ」と教育センターをふれんど平尾内に併設
- 稲城なしのすけが「ゆるキャラ®グランプリ」で東京都第1位を獲得（全国第30位）

2014 26
- iバス第1期見直し路線運行開始
- 放課後子ども教室を小学校8校で開始

2015 27
- 稲城長峰スポーツ広場開設
- 南山小学校開校（矢野口）
- 公営 稲城・府中メモリアルパーク開苑
- 福島県相馬市、長野県野沢温泉村と友好都市提携
- 子ども家庭支援センター本郷分室開設（東長沼）
- 稲城押立第一土地区画整理事業完了
- メカニックデザイナー 大河原邦男プロジェクト開始

2016 28
- 成田・羽田空港への連絡バスが稲城駅・若葉台駅乗り入れ
- いなぎ発信基地ペアテラス開業（東長沼）
- 「ガンダム ＆ シャア専用ザク」のモニュメント設置（東長沼）
- 市制施行45周年を記念して市の鳥「チョウゲンボウ」制定
- 市道初のトンネルとなる「上平尾トンネル」が開通
- いなぎ Free Wi-Fi運用開始

2017 29
- 稲城消防署上平尾消防出張所開所
- iバス第2期 見直し路線運行開始
- 「ヤッターワン」のモニュメント設置（大丸）
- 市制施行45周年を記念して「稲城市」、「INAGI CITY」のロゴタイプ制定
- 各種証明書のコンビニ交付開始

2018 30
- 路上等喫煙の制限に関する条例施行
- 稲城市観光協会設立
- 第1回 稲城クロスが開催（自転車競技）
- 稲城村消防団発足70周年、稲城町消防本部開設50周年記念
- 消防団が「総務省消防庁長官表彰旗」受賞

2019 平成31
- 住所整理の実施により平尾四丁目が誕生
- いなぎペアパーク開設（東長沼）

令和元
- 小田良トンネル、坂浜平尾線が開通
- ガンダムなどのデザインマンホール蓋を市内5か所に設置

2020 令和2
- 「スコープドッグ」のモニュメント設置（東長沼）
- 新型コロナウイルス感染症対策本部を設置（政府の緊急事態宣言発出に基づき、市立小中学校の臨時休校、保育園・学童クラブの臨時休業、公共施設の閉鎖等を実施）
- GIGAスクール構想の実施
- 学校給食共同調理場の新第一調理場が完成（矢野口）
- おやこ包括支援センターの開設（保健センター内）

2021 3
- 第五次長期総合計画・基本計画策定
- 稲城サイクルカフェがオープン（稲城中央公園内）
- 東京2020オリンピック競技大会の自転車競技ロードレースが市内をコースの一部として開催される
- アメリカ合衆国カリフォルニア州フォスターシティ市と姉妹都市提携
- 市制施行50周年を記念して稲城市歌を制定

市制施行50周年を迎える
（人口 92,891人、41,843世帯）
※人口及び世帯数は10月1日時点

ここから先の未来を
作るのは皆さんです！

©K.Okawara・Jet Inoue

稲城市民のメッセージ

市制施行50周年を記念して、市民の皆さんに「未来へのメッセージ（今後の抱負）」というテーマでメッセージをいただきました。
市民が想い描く稲城の今を紹介します。

50th Anniversary INAGI CITY

稲城市民に聞きました
未来へのメッセージ（今後の抱負）

01 稲城黒マメ隊　02 音訳グループ ペア　03 稲城第六中学校 陸上部OG　04 羽深さん一家　05 稲城第二中学校 生徒会
06 図書館読み聞かせボランティア ひよこ　07 ポムポムスタンプ　08 石田さん　09 若葉台フレンズ　10 稲城市職員有志　11 南山BASE

06

07

08

09

10

11

稲城市制施行50周年記念誌
「ほどよく田舎、ほどよく都会なまち」

令和3年11月1日発行
企画　稲城市制施行50周年記念誌市民編集委員会
発行　稲城市企画部企画政策課
　　稲城市東長沼2111番地
　　電話 042-378-2111
　　www.city.inagi.tokyo.jp
編集　株式会社インターメディアリー
制作　Boat Design

＊掲載した写真の複写・転載を禁じます